

三 版

新海軍法令



始



特110

724

訂正三版

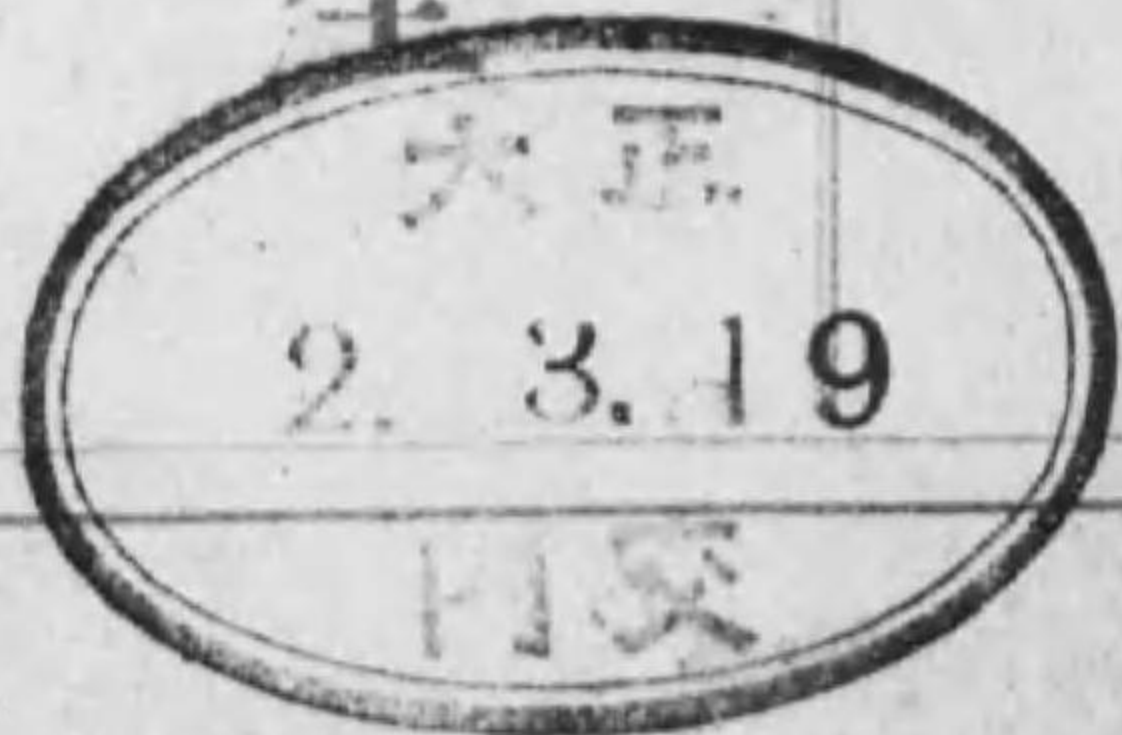


大正二年三月改正

發賣元

新海軍法令全

吉田書店



目次

商法	海商編	一
船舶法	船舶法	四十五
船舶法	船舶法施行細則	五十三
船舶法	船舶法施行細則	七十七
船舶法	船舶檢查法	八十三
船舶法	船舶檢查法施行細則	八十六
船舶法	船舶檢查規程	百二十二
船舶法	船舶員法	百九十一
船舶法	船舶員法施行細則	二百八
船舶法	船舶員證明規則	二百三十六
船舶法	船舶員懲戒法	二百四十四

船舶職員法	二百五十
船舶職員法施行細則	二百五十六
船舶職員試驗規程	二百七十五
海上衝突豫防法	三百十一
大阪府水路取締規則	三百三十二
水難救護法	三百四十一
水難救護法施行細則	三百五十一
海港檢疫法	三百五十五
海港檢疫法施行細則	三百六十一
火藥類船舶運送及貯藏規則	三百六十六
管海官廳事務取扱市町村長	三百七十二
船舶検査施行地	三百七十六
船舶職員試驗期日及場所	三百七十八

新海事法令

商法海商編

明治三十二年 公布(法律)
 明治四十四年 改正

第一章 船舶及船舶所有者

- 第五百二十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
- 本編ノ規定ハ端船其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス
- 第五百二十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス
- 第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス
- 前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス
- 第五百四十一條 船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約

○商法海商編

ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス
第五百四十三條 差押及假差押ハ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限リニ在ラス

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終リニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限リニ在ラス
前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セ

第五百四十四條ノ二 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百四十五條 船舶所有者カ債務者ノ同意ヲ得シテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價額ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラザリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價額ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨償スル責ニ任ス

第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ終リニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價額ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコ

トヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一 船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト

二 船舶ヲ保險ニ付スルコト

三 新ニ航海ヲ爲スコト

四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ

日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船舶ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有權ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船 員

第一節 船 長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ

損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百六十條 船長カ己ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ要ス

第五百六十二條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄
- 四 航海日誌

五 旅客名簿

六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類

七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ積荷ノ船積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ積物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滯ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト
- 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條

ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海管廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

- 一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ
 - 二 修繕費カ船舶ノ價格ノ四分ノ三ニ超ユルトキ
- 前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス
- 第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滯ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ

爲スコトヲ要ス

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滯ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病

ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應シテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ

三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職勉ニ堪ヘサルニ至リタルト

五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一ヶ月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 船舶カ沈没シタルコト
- 二 船舶カ修繕スルコトヲ能ハサルニ至リタルコト

三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送 第一節 物品運送

第一款 總則

第五百九十條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ニ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十一條 船舶所有者ハ備船舶又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十三條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ

船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危キヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百九十四條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セ

第五百九十五條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ又通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期

間内ニ限リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第五百九十六條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百九十七條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十八條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十五條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損、又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲ニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ

準用ス

第六百二條 備蓄ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人

ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ

得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有

者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準

用ス

第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長

ニ交付スルコトヲ要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ

於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナ

ク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリ

タル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ

船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セ

ス

個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指

圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ

趣旨ニ從ヒ運送賃、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應

シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコト

ヲ要セス

第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供

託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スル

コトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ

拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞

ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ

運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條 期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手

ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力
ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途
中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第五百九十四條
第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ
後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受ク
ル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上
ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ
第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者
又荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ
限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合
ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ
船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履
行ノ責ニ任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ
其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由
 - 二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト
- 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者
ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送賃ヲ支拂フ
コトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力
ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各
當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタ
ルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條 第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由
カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カ
ラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滞ナク運送品ノ
陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運

送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及ヒ第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條 第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルト雖モ備船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ

二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滞ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
- 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
- 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號
- 四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
- 五 荷受人ノ氏名若クハ商號
- 六 船積港
- 七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港
- 八 運送貨
- 九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二十三條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ原本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコト得ス

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滯ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其効力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル

證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第六百二十九條 第三百三十四條乃至第三百三十五條及第三百四十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第六百三十條 記名ノ乘船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第六百三十一條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帯スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十三條 旅客カ乘船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

發航後ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三十五條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送貨ノ

四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得
前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從
ヒ運送賃ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ請求スル
コトヲ得

第六百三十六條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ
其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ
害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ
提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ
因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ
應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百二十八條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適
スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十九條 第三百五十條、第三百五十一條第一項、第三百五十二條
第五百九十一條、第五百九十二條、第六百十四條及ヒ第六百十八條ノ規
定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス
第五百九十三條及ヒ第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第六百四十條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ
目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節
第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海 損

第六百四十一條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ
船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ
共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失
者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積
荷ノ價格ト運送賃ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利
害關係人ノ分擔ス

第六百四十三條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時
ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷
ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送賃其
他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到

達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス
第六百四十五條 船舶ニ備附ケタル武器船員ノ給料船員及ヒ旅客ノ食料並
ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル
損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十六條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナク
シテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利
害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス
甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ
此限ニ在ラス
前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ル
ルコトヲ得ス

第六百四十七條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ
價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ
付テハ其滅夫又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除
スルコトヲ要ス

第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六百四十八條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積

荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ
其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記
載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス
前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ
爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ
分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シ
タルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助料及ヒ一部滅失又ハ毀損ニ因リテ
生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙
方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル
損害ハ各船舶所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ
經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス
第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途

中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 海難救助

第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス

先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス

第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス

人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦タ前項ノ規定ニ從ヒテ救助ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ仕拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス

第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立テヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立テ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海管廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

管海管廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得

船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得
第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコト
ヲ得ス

- 一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ
- 二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラヌ強ヒテ之ニ從事
シタルトキ

三 救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ

第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取
特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル
一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

救助料ニ關スル訴ニ於テハ船長ノ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其
訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其効力ヲ有ス

第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ
支拂フ義務ヲ負フ

第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第

三取得者ニ引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス
第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經
過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第六章 保險

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトア
ルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節
第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外
保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ
損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補
スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ
負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其
價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及

ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百六十條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外

左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名
- 二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ノ變更シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス
到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可

抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第六百六十五條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百六十七條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ傭船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 水先案内料、入港料、燈臺料檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出ダシタル通常ノ費用

第六百六十八條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セザル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送賃其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケス
前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ

五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委

付ノ通知ヲ受ケタル時之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約竝ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取

ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 船舶竝ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
- 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
- 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
- 四 水先案内料及ヒ挽船料
- 五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
- 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
- 八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造竝ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニ

スル船舶ノ機装、食料並ニ燃料ニ關スル債權

九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス

第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セサシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラヌ後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ノト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

先取得權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲ササリシトキハ先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條 船舶債權者ノ先取得權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ
船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得
第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

四四



◎船舶法

明治三十二年公布
全三十八年改正 (法律)

第一條

左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員

カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品

又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、

海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此

限ニ在ラス

○船舶法

門十五

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官
 廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス
 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スル
 コトヲ得
 外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶
 所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコト
 ヲ得
 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ
 備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スル
 コトヲ要ス
 第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船
 舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ航行セシムル
 コトヲ得ス
 第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍
 港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス
 第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレ

ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
 第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタ
 ルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量
 ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス
 第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知り
 タル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有
 者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶
 國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ
 第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル
 日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス
 第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若ハ
 毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ
 假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
 日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ
 最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後
最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日
本ノ國籍ヲ喪失シ若ハ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者
ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間以内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶
國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月分明ナラサルトキ亦同
シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一
個月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササ
ルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ
管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國
籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書
ヲ請受クルコトヲ得

第十三條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコ
トヲ得ス

トヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得
ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ
更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間滿了
前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶
及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニ
ハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命
令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタ
ルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒
收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ

在ラヌ

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ

船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有効期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有効期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行

ノ日ヨリ之ヲ起算ス
本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ
前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

◎船舶法施行細則

明治三十二年公布
全三十八年改正 (省令)

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ
機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラヌ
之ヲ汽船ト看做ス

○船舶法施行細則

主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス
第二條 浚渫船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト看做サス
第三條 船籍港ハ各市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セザル地方ニ
在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ
最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

- 一 試運轉ノトキ
- 二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ
- 三 正當ノ事由アルトキ

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ
船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得

- 一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限
ル
- 二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ
- 三 進水ノトキ
- 四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條 船舶ノ積量若クハ登録ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要

アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得
第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ
使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントス
ル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積量ノ測度ヲ申請
セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水
ノ年月日ヲ證スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽罐ノ
製造者ニ於テ汽機、汽罐製造ノ年月日ヲ證スル書面
- 二 所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ又ハ商事會社
其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ
掲ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ
前號ニ掲ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽罐ノ製造者ノ氏名又ハ名
稱並船舶ノ原名ヲ證スル書面

船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石

以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條 積量ノ測度ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第十條 積量ノ測度ヲ申請スル者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條 第八條及前條ノ規定ハ船舶法第四條第三項ノ規定ニ依リ外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス

第十三條 管海官廳ハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付シ同時ニ第八條第二項及第三項ニ依リ差出シタル證書ヲ還付スヘシ

第十四條 第九條但書ノ場合ニ於テ船舶ノ所在地當該管海官廳ノ管轄區域外前項ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第十五條 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及測度ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得但量噸甲板下部ノ噸數及甲板間ノ噸數ヲ測度スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 第十條及第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニハ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三章 船舶ノ登録
船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ

登記ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
管海官廳ハ關係書類ヲ調査シ汽船及機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項
ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 名稱
- 五 船籍港
- 六 甲板ノ層數及種類
- 七 外板ノ材料
- 八 船骨ノ材料
- 九 檣ノ數
- 十 網具ノ裝置
- 十一 船首ノ形狀
- 十二 船尾ノ形狀
- 十三 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長
- 十四 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長

- 十五 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測タル幅
- 十六 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
- 十七 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深
- 十八 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長ノ中央ニ於テ該甲板ノ下
面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深
- 十九 支水隔壁ノ數
- 二十 二重底ノ位置及容量
- 二十一 最大喫水
- 二十二 量噸甲板下部ノ噸數
- 二十三 量噸甲板上部ノ噸數
- 甲板間ノ噸數
- 船首樓ノ噸數
- 船橋樓ノ噸數
- 船尾樓ノ噸數
- 圓室ノ噸數
- 其他蔽圍セル場所ノ噸數
- 二十四 總噸數

○船舶法施行細則

- 二十五 登簿噸數
- 二十六 船員常用室ノ噸數
- 二十七 機關室ノ噸數
- 二十八 汽機ノ種類及數
- 二十九 汽罐ノ種類及數
- 三十 汽罐ノ材料
- 三十一 汽笛ノ數
- 三十二 汽笛ノ徑
- 三十三 汽笛ノ行長
- 三十四 推進器ノ種類及數
- 三十五 公稱馬力
- 三十六 製造地
- 三十七 進水ノ年月日
- 三十八 汽機製造ノ年月日
- 三十九 汽罐製造ノ年月日
- 四十 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
- 四十一 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱

- 四十二 造船者ノ氏名又ハ名稱
- 四十三 原名
- 四十四 所有者氏名又ハ名稱及住所共有者ナルトキハ其持分
帆船ニ在リテハ前項第一號乃至第二十六號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項ヲ登錄ス
- 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第二項第一號第三號乃至第五號第七號乃至第九號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス
- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
- 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面マテノ深
- 四 積石數
- 第二項第十四號第十六號第十八號及前項ノ長、幅及深ハ曲尺ヲ以テ測リタル尺度ヲ登錄ス
- 第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

- 一 所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
 - 二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ
 - 三 所有者ニ於テ自己ノ行爲ニ因ルニアラスシテ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ
- 第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登録用紙ヲ閉鎖ス
- 船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登録ノミヲ謄寫ス
- 乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登録ヲ移ス
- 第二十一條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

- 第二十二條 第十七條第二項第六號乃至第十二號第十九號乃至第二十一號第二十八號乃至第三十五號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
- 第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十三條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クルコトヲ得
- 前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ
- 第二十四條 第十七條第二項第十三號乃至第十八號第二十二號乃至第二十七號又ハ第四項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ第十五條ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ
- 第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 第二十六條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ノ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但

第二十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ登記済證ヲ添へ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登録用紙ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數

二 船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

三 抹消ノ登録ヲナシタル原因

四 抹消ノ登録ヲナシタル年月日

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ

申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ記載シタル行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶

國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十条第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルト

キハ遲滯ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ
船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

假船舶國籍證書ノ様式ハ第四號書式ニ依ル

第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

第三十八條 假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ説明スヘシ

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 第二十八條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 國旗及船舶ノ標示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

- 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
- 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
- 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
- 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
- 五 法令ニ別段ノ定アルトキ

第四十四條 船舶ハ標示スヘキ事項及其方法ハ左ノ如シ但石數ヲ以テ積量ヲ

表示スル船舶ニ付テハ第四十五條ノ規定ニ依ル

- 一 船首両舷ノ外部ニ船舶ノ名稱、船尾外部ノ見易キ所ニ船舶及船籍港ノ名稱ヲ四吋以上ノ國字及羅馬字ヲ以テ記スルコト
- 二 中央ノ船梁ニ船舶ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘着スルコト
- 三 船首材及船尾材、船尾材ナキトキハ舵柱ノ外部兩側面へ喫水ヲ示ス爲メ龍骨ノ下面、副龍骨ヲ有スルトキハ其下面直線ヨリ最大喫水ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致スルコト
- 第四十五條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタル方法ニ依リ船尾ニ船舶及船籍港ノ名稱、船梁ニ船舶ノ番號及積石數ヲ標示スヘシ
- 第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ク耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ

第六章 登録税、手数料旅費及日當

第四十八條 登録税法ノ規定ニ從ヒ登録税ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録税納付書ヲ登録ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

- 一 第十七條第一項ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第一號
- 二 船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ共有者ノ持分ノ變更ニ依リ登録ヲ爲ス場合、第二十二條又ハ第二十四條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第四號
- 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第三號
- 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第二號
- 第四十九條 登録税法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條第二項各號又ハ第四項各號ノ事項ノ變更ヲ以テ每一箇トス
- 第五十條 登録税納付書ニハ船舶ノ名稱、積量及税金額ヲ記載シ登録税法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ
- 第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ
- 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
- 二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

四 登録税額

第五十一條 第二十九條ノ手数料ハ左ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スベシ

- 一 謄本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
- 二 抄本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
- 三 船舶原簿ノ閲覧 金二十錢

第五十二條 登録税納付書又ハ前條ノ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第五十三條 船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ検査官吏ノ出張シタルトキハ船舶所有者ハ成規ノ旅費及日當ヲ當該管海官廳ニ納付スヘシ

第七章 罰則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十六條 明治二十六年^二遞信省令第三號、同年^三遞信省令第六號失踪船取扱規則、同年^四遞信省告示第八十五號及明治二十九年^四遞信省令第三號

第五十七條 船舶法施行ノ際登録簿免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クヘキモノ、所有者ハ

登録噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ、登録噸數十

五噸未滿ノ汽船及検査ヲ要セサル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ

二個年內ニ船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登録簿免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ遲滞ナク船舶籍港ヲ管轄スル管

海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遲滞ナク船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

○船舶法施行規則

前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

一 船舶ノ番號、名稱及積量

二 船籍港

三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一 登記ノ謄本

二 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽罐ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面

三 船鑑札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、

進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録ヲ爲ストキハ登簿

船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタル

トキハ遲滯ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク

該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適

用ス

第六十四條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登録ヲ

了ルマデ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲サ、ルコトヲ得

第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル假免狀

ニ之ヲ準用ス

(第一號書式)

積量測度申請書

汽船 何丸

- 一 船籍港
- 二 積量
- 三 造船者ノ氏名又ハ名稱
- 四 製造地
- 五 進水ノ年月日
- 六 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
- 七 汽機製造ノ年月日
- 八 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱
- 九 汽罐製造ノ年月日
- 十 原名

○船舶法施行細則

- 何市町村(何府縣何國何郡)
- 總噸數何噸又ハ積石數何石
- 何某又ハ何會社(何府縣何國何郡何市町村)
- 何府縣何國何郡何市町村
- 明治又ハ西曆何年何月何日
- 何某又ハ何會社
- 明治又ハ西曆何年何月何日
- 何某又ハ何會社
- 明治又ハ西曆何年何月何日
- 何々

- 十一 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所
並共有者ナルトキハ其持分
何府縣何國何郡何市町村何番地何某又ハ何會社
 - 十二 船舶管理人ノ住所氏名
何府縣何國何郡何市町村何某
 - 十三 測度ヲ受ケントスル場所
某所
- 右者今般新造シ(又ハ何國人何某ヨリ買受ケ等)貴管内ニ船籍港ヲ定メ候ニ付積量測度相成度關係書
願何通相添此段及申請候也
- 明治 年 月 日
- 住 所 何 某

(管海官廳名)
御中

(備考)

- 一 船名、郡市町村名、氏名及名稱ニハ擬假名ヲ附記シ外國ノ名稱ナルトキハ外國文字
ヲ附記スヘシ
 - 二 原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最近ノ船名ヲ謂フ
 - 三 前記件名中船舶ノ種類ニ依リ事項ナキモノハ之ヲ省略スヘシ
- (第二號書式) 船舶件名書 略ス
- (第三號乃至第四號) 船舶國籍證書 略ス
- (第五號書式) 假船舶國籍證書交付申請書

汽船何丸

- 一 船籍港
 - 二 製造地
 - 三 造船者
 - 四 進水ノ年月日
 - 五 甲板ノ層數
 - 六 外板ノ材料
 - 七 船骨ノ材料
 - 八 檣ノ數
 - 九 網具ノ裝置
 - 十 船首ノ形狀
 - 十一 船尾ノ形狀
 - 十二 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長
 - 十三 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面
迄ノ幅
 - 十四 船舶積量測度法ニ依ル量噸甲板下ノ長ノ
中央ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板
ノ上面マテノ深
 - 十五 量噸甲板下部ノ噸數
 - 十六 量噸甲板上部ノ噸數
- 何市町村(何府縣何國何郡)
何府縣何國何郡何市町村
何某又ハ何會社
明治又ハ西曆何年何月何日
何層
鋼、鐵又ハ木
鋼、鐵又ハ木
何本
「シツプ」「パーク」「パーケン」「タイン」「ブリーツ」「
ブリガン」「タイン」「スクーナー」「カッター」「スル
ープ」等
曲形、斜形又ハ直形
圓形、橢圓形又ハ方形
何尺何寸何分
何尺何寸何分
何尺何寸何分
何噸
何噸

○船舶法施行細則

甲板間ノ噸數	何噸
船首樓ノ噸數	何噸
船橋樓ノ噸數	何噸
船尾樓ノ噸數	何噸
圖室ノ噸數	何噸
其ノ他蔽圍セル場所ノ噸數	何噸
十七 總噸數	何噸
十八 登簿噸數	何噸
十九 船員常用室ノ噸數	何噸
二十 機關室ノ噸數	何噸
二十一 汽機ノ種類及數	聯成、聯成冷汽、重聯成、三聯成等 何箇
二十二 汽罐ノ種類及數	筒形、楕圓形、「バルビー」水管式等 何箇
二十三 推進ノ種類及數	外車、螺旋推進器等
二十四 汽機製造者	何某又ハ何會社
二十五 汽機製造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
二十六 汽罐製造者	何某又ハ何會社
二十七 汽罐製造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
二十八 船舶所有者又ハ共有者及持分	何府縣何國何郡何市町村何番地何某又ハ何會社

右者今般新造致シ(又ハ何國人何某ヨリ買受ケ等)候ニ付假船舶國籍證書交付相成度船舶法第十五條(又ハ第十六條)船舶法施行細則第三十七條ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

明治 年 月 日

住 所

氏 名

(管海官廳名)

御中

備考 本書式中ノ件名ハ汽船ヲ標準トシテ列舉シタルモノナルヲ以テ件名ニ付テハ第四號書式ノ乙丙ノ書式ニ記載シタル帆船ニ對照シ變換又ハ省略スヘシ

◎船鑑札規則

明治四十年公布 (省令)

- 第一條 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ
 - 一 總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ帆船
 - 二 端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟
- 第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ
- 管海官廳日本ノ領事館、貿易事務官其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ
- 第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ

○船鑑札規則

シ

但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニヨリ船舶ノ積量ノ測定ヲナシタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ
第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方

官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ積本、積量測定ニ關スル書類ヲ添付シテ其旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タズ船鑑札臺帳ノ積本積量測定ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合、又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ積本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間以内ニ事由ヲ説明シ

船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

- 一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
- 二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
- 三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スルニ至リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ説明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要ト認ムルトキハ積量ノ改測ヲ執行セシム

第十五條 第一條、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十九年^{十二月} 遞信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ地方長官ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ

現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテニ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ効力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

(第一號書式)

○船鑑札規則

船鑑札交付申請書

- 一 船種 (汽船、帆船ノ別但發動機船ナルトキハ其旨) 船名
 - 二 船籍港 (當該市町村名)
 - 三 進水年月
 - 四 尺度 (船體ノ最大ノ長、幅、深)
 - 五 測度ヲ受ケントスル場所
 - 六 申請ノ事由 (新造、外國船購入等)
- 右船舶ニ對シ船鑑札交付相成度此段申請候也

明治 年 月 日

住所

所有者氏名

地方官廳名

御中

(第二號船鑑札書式)

略ス

◎船舶検査法

明治二十九年公布
全三十三号改正 (法律)

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受クヘシ

一 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船

二 端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル船

三 倉庫船、繫留船

四 平水航路ノミヲ航行スル帆船

第二條 削除

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其製造中ト雖モ一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 船舶ノ検査ハ其所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ
遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ限り前項ノ規定ニ依ラス特ニ検査官吏ヲ指

○船舶検査法

定シテ船舶ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス
第十條 遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ長ヲ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ
船舶検査證書又ハ假證書ニ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該證書ニ記載シタル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス
前條第二項ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ用人ニ之ヲ適用ス
前條第一項及第三項ノ罰則ハ船長ニ代リテ其職務ヲ行フモノニモ之ヲ適用ス

第十二條 船舶ノ航路定限航行期間旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有効期間滿了マテ效力ヲ有メ

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數二百石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受ケタルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲ケル船舶ニ付テハ命令ノ定ムル所ニヨリ検査ヲ執行ス

- 一 日本臣民ニ於テ借入日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用スル外國船舶
- 二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶
- 三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外國船舶

第十八條 地方長官ハ第一條ニ掲ケタル船舶ノ検査ニ關シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規程ヲ設ケルコトヲ得

◎船舶検査法施行細則

明治三十三年公布
大正元年十二月迄數度改正

(省令)

第一章 總則

第一條 本則ノ規定ハ特ニ明文アル場合ヲ除ク外外國船舶検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ外國船舶ニモ亦之ヲ適用ス

第二條 本則ニ於テ船舶ト稱スルハ前條ニ掲ケタル外國船舶ヲモ包含ス

第二條ノ二 關東州船舶特種検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル船舶ハ船舶検査法ニ定ムル検査ヲ受ケタルモノト看做ス

關東州船舶特種検査規則ノ規定ニ依リ交付セラレタル證書ヲ有スル船舶ハ其證書ノ有効期間内ニ限り船舶検査法及本則ニ定ムル證書ヲ受有セスシテ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第二章 検査ノ種類

第三條 船舶ノ検査ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 特別検査
 - 二 定期検査
 - 三 臨時検査
 - 四 移民船検査
- 總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船及ヒ浚漉船ニ對シテハ前項第一號ノ検査ヲ行ハス
- 第四條 初メテ特別検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ
- 一 日本船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セントスルトキ
 - 二 船舶検査法第十七條第一號若ハ第二號ニ掲ケタル外國船舶ヲ同號ノ航路ニ使用セントスルトキ

○船舶検査法施行細則

三 船舶検査法第一條各號ノ船舶カ同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ

船舶検査法第三條第二項ノ申請アリタルトキハ前項第一號ノ場合ニ於ケル特別検査ノ一部ヲ行フ

第五條 管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ左ニ掲クル船舶ノ第一回特別検査ヲ第一回定期検査ノ有効期間満了マテ猶豫スルコトヲ得

一 進水後二箇年ヲ經過セサル船舶
二 遞信大臣ノ認可シタル船舶検査員ニ於テ日本ノ法令ニ依リ特別検査ヲ行ヒ其ノ有効期間内ニ在ル船舶

船舶検査法第十七條第一號ニ掲ケタル外國船舶ニシテ其所屬國政府又ハ相當ノ技能ヲ有スル者ノ特別検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ有効期間満了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條ノ二 船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケタル船舶カ検査ヲ受ケルコトヲ要セサルモノト爲リタル後再ヒ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ前ニ受ケタル特別検査ノ有効期間満了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

特別検査ヲ受ケタル船舶カ第三條第二項ニ掲ケタル船舶ト爲リタル後再ヒ

特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ又ハ特別検査ヲ受ケタル船舶カ國籍ヲ變更シタルモ引續キ船舶検査法ノ適用ヲ受クヘキトキハ亦前項ニ同シ

第六條 第二回以後ノ特別検査ハ前回特別検査ヲ受ケタル時ヨリ起算シ三年乃至六年ノ範圍ニ於テ船舶検査規程ニ依リ検査官吏ノ定メタル時期ニ之ヲ行フ

第七條 特別検査ハ前條ノ規定ニ依リ検査官吏ニ於テ定メタル期間内ト雖モ船舶所有者、船舶管理人若ハ船舶借入人ノ申請ニ因リ管海官廳ニ於テ相當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ其ノ期間ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得

第八條 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メントスルトキ之ヲ行フ
前條ノ規定ハ船舶カ其ノ航行期間内ニ定期検査ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ定期検査ノ繰上ケヲ認許シタルトキハ船舶ノ航行期間ハ其満了前ト雖モ滿了シタルモノト看做ス

第九條 臨時検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ
一 船舶検査法第三條第一項ノ規定ニ依リ検査官吏ニ於テ検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ

二 第三十四條、第五十六條、第六十三條、第六十四條及第七十一條第

三項ノ申請又ハ第七十五條ノ届出アリタル場合ニ於テ管海官廳カ検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ

第十條 特別検査ヲ定期検査ト同時ニ行フヘキ場合ニ於テ特別検査ヲ行ヒタルトキハ定期検査ハ之ヲ行ヒタルモノト看做ス

第十一條 移民船検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

- 一 日本船舶カ日本各港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及ヒ三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ之ヲ近海航路外ノ港又ハ別ニ定ムル地方ニ運送センカ爲メ日本ノ最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二 外國船舶カ外國船舶検査規則第三條ニ該當スルトキ

外國船舶検査規則第一條第二項ノ規定ハ前項第一號ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十二條 各種検査ノ方法及ヒ標準ハ船舶検査規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 検査申請ノ手續

第十三條 船舶ノ検査ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ之ヲ申請スヘシ但シ正當ノ理由在ルトキハ船長ニ於テ之ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 船舶検査申請書ニハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ニ掲ク

ル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸數若ハ積石數
 - 二 所有者ノ住所及ヒ氏名若ハ名稱
 - 三 船籍港
 - 四 船長ノ氏名及ヒ其ノ海技免狀ノ種類
 - 五 航行セントスル航路
 - 六 業務種類（漁船ニ在リテハ）
 - 七 検査ヲ受ケントスル期日及ヒ場所
 - 八 検査ノ種類及ヒ其ノ申請ノ事由
- 第五條又ハ第五條ノ二ノ規定ニ依リ特別検査ノ猶豫ヲ申請セントスルトキハ左ニ掲クル書類ヲ前項ノ申請書ニ添附スヘシ
- 一 第五條第一項第一號ノ場合 進水ノ年月日ヲ證スル書面
 - 二 第五條第一項第二號ノ場合 船舶検査員ノ調製シタル特別検査件名書
 - 三 第五條第三項ノ場合 當該船舶ノ所屬國政府又ハ相當ノ技能ヲ有スル者ノ調製シタル特別検査證明書
 - 四 第五條ノ二ノ場合 船舶検査手帖、若シ之ヲ添付スルコト能ハサル

トキハ前ニ特別検査ヲ受ケタル年月、場所、當時ノ船名及番號ヲ記載シタル書面

検査申請人ハ第一回特別検査及ヒ第一回定期検査ヲ受クル場合ヲ除ク外申請書ニ船舶検査手帖ヲ添附スヘシ

第十五條 船舶検査法第三條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者ハ申請書、製造仕様書及ヒ圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ圖面ヲ差出スヲ要セス

前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者ト異ナル場合ニ於テハ之ニ連署スヘシ

- 一 船舶ノ種類及豫定ノ資格
- 二 甲板及ヒ船骨ノ材料
- 三 計畫積量
- 四 計畫汽壓
- 五 計畫實馬力
- 六 汽機ノ種類及ヒ數
- 七 汽罐ノ種類及ヒ數

八 推進器ノ種類及ヒ數

九 使用ノ目的

十 使用ノ航路

十一 製造所ノ名稱及ヒ其ノ所在地

十二 擔任技師ノ氏名

十三 起工ノ年月

圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

- 一 船體中央橫截面圖
- 二 船體中心線縱截面圖
- 三 甲板平面圖
- 四 汽機橫截面圖
- 五 汽機縱截面圖
- 六 汽罐橫截面圖
- 七 汽罐縱截面圖

第十六條 移民船検査ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ第十四條第一項ノ規定ニ依リテ記載スヘキ事項ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載シ船舶検査證書ノ寫及ヒ日本船舶ニ在リテハ船舶検査手帖ヲ添ヘテ管海官廳ニ差出シ之ヲ申請スヘ

- 一 搭載スル移住民若ハ三等旅客ノ員數
- 二 移住民若ハ三等旅客ヲ搭載スル港、發航港、寄航港、到達港並移住民若ハ三等旅客ヲ陸揚スル港
- 三 發航ノ日時及ヒ豫定航海期間
- 四 航行里程
- 五 平均速力
- 六 移住民若ハ三等旅客ニ充ツヘキ場所

第四章 検査

第十七條 船舶ノ検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ申請人検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疎明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ検査申請人ハ船舶検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ申請書ニ附記スヘシ

第十八條 船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 船舶カ検査ヲ受クルトキハ汽船ニ在リテハ船長及ヒ機關長、帆船ニ在リテハ船長之ニ立會フヘシ

第二十條 検査ヲ受ケントスル船舶ノ船長ハ船舶検査規程ノ定ムル所ニ依リ相當ノ準備ヲ爲スヘシ

第二十一條 検査官吏検査ノ爲メ船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書、登簿船免狀、船鑑札又ハ船舶検査證書、假證書、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供ス

第二十二條 検査ヲ受クル船舶ノ船長及ヒ機關長ハ検査官吏ノ要求ニ應シ必要ナル幫助ヲ爲シ又ハ其ノ訊問ニ對シ陳述ヲ爲スヘシ

第二十三條 船長又ハ機關長差支アリテ検査ニ立會フコト能ハサルトキハ運轉士又ハ機關士之ニ代リテ立會フヘシ

船長、運轉士、機關長又ハ機關士ノ乗組マサル船舶ノ検査ヲ受クルトキハ船舶所有者ハ相當ノ者ヲ指定シテ検査ニ立會ハシムヘシ

前三條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リテ立會ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタルモノ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ検査官吏ハ其検査ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 検査官吏検査ヲ行フニ當リ必要ナリト認ムルトキハ検査ヲ結了スルマテ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定

員證書ヲ領置スルコトヲ得

第二十五條 特別検査、定期検査又ハ臨時検査ノ執行中検査官吏ニ於テ其ノ船舶ノ入渠、上架、修繕又ハ屬具ノ整備ヲ必要ナリト認メタルモ當該管海官廳ノ管轄区域内ニ於テ直ニ之ヲ爲スコト能ハサルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ該管海官廳ニ差出シ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得
管海官廳ニ於テ前項ノ事由ハ正當ニシテ且船舶ハ其ノ航海ニ適スルモノト認メタルトキハ検査ヲ中止シ之ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ引繼チ受ケタル管海官廳ハ前管海官廳ニ於テ検査シタル部分ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第五章 検査ニ關スル書類

第二十六條 船舶検査證書ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種船舶検査證書ハ第一號書式ニ依リ乙種船舶検査證書ハ第二號書式ニ依ル

甲種船舶検査證書ハ定期検査ヲ行ヒタルトキ又ハ該證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ之ヲ交付シ乙種船舶検査證書ハ移民船検査ヲ行ヒタルトキ之

ルトキ之 交付ス

漁船ニハ甲種船舶検査證書ニ代ヘテ漁船検査證書ヲ交付ス

漁船検査證書ハ第一號ノ二書式ニ依ル

漁船ト稱スルハ漁獵ニノミ從事スル船舶及ヒ専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶ヲ謂フ

第二十七條 假證書ハ第三號書式又ハ第三號ノ二書式ニ依ル

假證書ハ甲種船舶検査證書又ハ漁船検査證書ヲ交付スヘキ場合ニ限り之ヲ交付ス

假證書ノ有効期間ハ船舶検査證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ標準トシ検査官吏之ヲ定ム

假證書ハ二回以上之ヲ交付スルコトヲ得ス但シ第二十八條及ヒ第三十一條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 船舶検査證書又ハ假證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ船舶検査證書又ハ假證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第二十九條 前條ノ規定ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ノ再交付ヲ申請スルモ其ノ交付ヲ受クルニ至ルマテ時日ヲ要シ航海ニ差支ヲ生スルトキハ船長ハ前條ノ申請ヲ爲スト同時ニ最寄管海官廳ニ適航證書ノ交付ヲ申請スルコ

トチ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ其ノ事由ヲ具シ且滅失又ハ毀損ニ係ル船舶検査證書若ハ假證書ニ記載アリタル事項ヲ附記シ船舶検査手帖ノ存在スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第三十條 適航證書ハ第四號書式ニ依ル

適航證書ノ有効期間ハ船舶検査證書又ハ假證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ標準トシ一箇月以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム
適航證書ハ引續キ之ヲ交付スルコトヲ得ス但シ第四十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 船舶検査證書又ハ假證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルト

キハ船長ハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ船舶検査證書又ハ假證書ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生シタル事項カ船長ノ交代ニ係ルトキハ新船長ハ前項ノ手續ニ依ラスシテ船舶検査證書又ハ假證書ニ裏書ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ變更ヲ生シタル事項カ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スヘキモノナルトキハ船長ハ船舶法施行細則第三十四條又ハ同則

第三十九條ノ規定ニ依リテ交付アリタル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書

ヲ當該管海官廳ノ檢閲ニ供スヘシ但シ同一管海官廳ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ書換ヲ申請スヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條

左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 船舶カ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ適航證書ヲ受有スルトキ

二 船舶検査執行地外ニ於テ製造セラレ若ハ國籍ヲ取得シ其ノ他検査ヲ受クヘキモノト爲リタル船舶ヲ船籍港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受

クル爲メ該船舶ヲ最寄管海官廳所在地若ハ検査執行地マテ回航セシムルトキ

三 船舶法施行細則第四條各號ニ該當スルトキ

四 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書有効期間内ニ於テ内地ノ目的港マテ之ヲ回航スルトキ

五 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有效期間内ニ於テ内地各港ノ間、内地ト臺灣トノ内又ハ内地ト外國ト

ノ間ヲ航行セントスルトキ
 六 臺灣ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニヨリ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其検査證書有効期間内 於テ船舶検査法第十七條ノ場合ニ該當スルトキ
 七 管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又 繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲メ之ヲ回航セシムルトキ
 八 管海官廳ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ノ沿岸又ハ其ノ湖川港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ
 前項第二號第三號第七號又ハ第八號ノ場合ニ於テハ船舶ニ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ス
 第一項第五號又ハ第六號ノ船舶カ旅客船ナル場合ニ於テ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ旅客及ヒ旅客室ニ關スル設備ヲ検査シ本則及ヒ船舶検査規程ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得
 第三十三條 外國ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シタル日本船舶ヲ船籍港マテ回航セシムルニ當リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ船長ハ造船者其ノ他相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附シ帝國領事ノ認可ヲ申請スヘシ

帝國領事ニ於テ前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ回航認可證書ヲ交附ス
 第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路定限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

- 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得サル者ニ船舶ヲ讓渡ス目的ヲ以テ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國マテ回航セシムルトキ
- 二 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ノ沿岸又ハ其ノ湖川港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ
- 三 臺灣ニ船籍港ヲ變更スル爲メ船舶ヲ該島マテ回航セシムルトキ
- 四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ且工場所在地ヨリ検査執行地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ
- 四ノ二 管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ検査ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ検査ヲ受クル爲メ管海官廳所在地マテ回航セシムルトキ
- 五 第二十五條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ他ノ管海官廳ノ管轄區域内マテ船舶ヲ回航セシメ且ツ囑託ノ場合ニ於テハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域内マテ更ニ回航セシムルトキ
- 六 航路定限内ノ地ニ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ
- 七 船舶検査證書ノ有効期間滿了シタル場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船

十九八

船舶ヲ航路定限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ
航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限内マテ回航セシムルトキ
航路定限變更ノ爲メ船舶ヲ航路定限外ニ回航セシムルトキ
海難救助其他管海官廳ニ於テ已ヲ得サル事由アルモノト認ムル場合
ニ限リ一時船舶ヲ航路定限外ニ回航シ再ヒ航路定限内ニ回航セシム
ルトキ

前項第一號乃至第三號又ハ第五號ノ場合ニ於テ旅客及貨物ヲ搭載セサルト
キハ認可ヲ受クルコトヲ要セス但第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ最寄管
海官廳ハ届出ヘシ
第三十五條 第三十二條第一項第七號第八號及前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ
ントスルトキハ前條第五號ノ場合ヲ除ク外検査申請人ヨリ事由ヲ具シタル
申請書ヲ差出スヘシ

前條各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ其ノ旨ヲ前項
ノ申請書ニ附記スヘシ
管海官廳ハ前項ノ申請書ニ記載シタル事由ハ正當ニシテ且其ノ船舶ハ回航
ニ適スルモノト認メタルトキハ旅客又ハ貨物ヲ搭載シ得ルヤ否ヤヲ決シ回
航認可證書ヲ交付ス

第三十六條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ内地以
外ノ地ニ於テ航行期間滿了シタル場合ニ之ヲ其ノ到達港マテ回航セシメン
トスルトキハ船長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事ニ、其ノ他ノ地方ニ在リ
テハ當該管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能

ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附ス
ルコトヲ要ス
前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第三十六條 遠洋航路ノ定期航海ニ從事スル船舶十五年未滿ノ船舶カ航
行期間滿了シ又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル
爲メ外國ノ到達港マテ回航セシメントスル時ハ船舶所有者ハ事由ヲ具シタ
ル書面ヲ提出シ最寄管海官廳ニ其認可ヲ申請スヘシ

第三十七條 回航認可證書ハ第五號書式ニ依ル
第三十七條 回航認可證書ハ第五號書式ニ依ル
回航認可證書ノ有効期間ハ回航ニ要スル期間ヲ標準トシテ當該管海官廳又
ハ帝國領事之ヲ定ム

船舶カ目的地ニ到着シタルトキハ回航認可證書ハ有効期間滿了前ト雖モ其
ノ効力ヲ失フ
第三十八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ其ノ交付ヲ
受ケタル管海官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
二 船舶カ船舶検査法ノ規定ニ依リテ検査ヲ受クルコトヲ要セサルモノ
ト爲リタルトキ

三 船舶ノ航行期間又ハ假證書ノ有効期間滿了ノトキ
四 漁船検査證書ヲ受有スル船舶カ第二十六條第六項ニ該當セサルニ至
リタルトキ

第十一條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル船舶カ到達港ニ到着シタルトキハ其ノ港ニ於ケル帝國領事若シ其ノ港ニ帝國領事館ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル港ニ於ケル帝國領事ニ乙種船舶検査證書ヲ返還スヘシ

第三十九條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ舊船舶検査證書又ハ舊假證書ヲ其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ返還スヘシ

- 一 假證書ヲ受ケタル船舶ニ對シ船舶検査證書ノ交付ヲ受ケタルトキ
 - 二 船舶検査證書又ハ假證書ノ書換ヲ受ケタルトキ
 - 三 船舶検査證書又ハ假證書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ
- 第四十條 船舶検査證書又ハ假證書ノ返還ハ第三十八條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事實アリタル日若ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人之ヲ爲シ同項第三號ノ場合ニ於テハ遲滞ナク第三十九條各號ノ場合ニ於テハ新船舶検査證書又ハ新假證書ト引換ニ船長之ヲ爲スヘシ但シ船長ノ在ラサル場合ニ於テハ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人之ヲ爲スヘシ
- 船舶検査證書又ハ假證書ヲ返還スル義務アル者ノ所在分明ナラサルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ船舶検査證書又ハ假證書ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十一條 適航證書ヲ受有スル船舶ニ對シ船舶検査證書又ハ假證書ノ交付アリタルトキハ船長ハ之ト引換ニ適航證書ヲ其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ返還スヘシ

適航證書ノ有効期間滿了ノトキ又ハ効力ヲ失ヒタルトキハ船長ヨリ五日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 船舶検査證書、假證書又ハ適航證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ返還ノ義務アル者ハ當該管海官廳ニ其ノ事由ヲ説明スヘシ

前項ニ掲ケタル書類ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ管海官廳ハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ該書類ニ記載シタル有効期間滿了ノ後ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 回航認可證書ノ有効期間滿了ノトキ又ハ効力ヲ失ヒタルトキハ船長ヨリ五日以内ニ其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第四十二條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 船長ハ船舶検査證書、假證書、適航證書又ハ回航認可證書ヲ船内最モ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

沿海航路以下ノ船舶ニ在リテハ船長ハ其氏名ヲ記載シタル標札ヲ前項ニ掲

クル證書ニ並ヘテ掲ケ置クヘシ

第四十五條 検査官吏検査ヲ終了シタルトキハ船舶検査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船舶検査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ
船舶検査手帖ハ検査官吏ニ於テ檢閲スル場合ヲ除ク外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第四十六條 船舶検査手帖ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ依リ其再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊船舶検査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ
船舶検査手帖ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其事由ヲ具シ管海官廳ニ更ニ封緘ヲ申請スヘシ

第四十七條 適航證書、又ハ回航認可證書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ
適航證書若ハ回航認可證書ノ毀損ニ因リ其再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ヘニ舊適航證書若ハ舊回航認可證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章 航路制限

第四十八條 航路ヲ分チテ左ノ四種トス

一 遠洋航路

二 近海航路

三 沿海航路

四 平水航路

第四十九條 遠洋航路トハ内外國ノ各地ニ通スル航路ヲ謂フ

第五十條 近海航路トハ東經百十三度ヨリ同百七十度及ヒ北緯二十一度ヨリ

同六十三度ニ至ル線内ノ航路ヲ謂フ

第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ

第一區 上總國大東崎ヨリ安房國野島崎、伊豆國大島及ヒ神子元島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内

第二區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國大王崎紀伊國大島及ヒ潮岬ヲ經テ土佐國甲ノ浦ニ至ル線内紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内及ヒ淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線内

第三區 削除

第四區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線内、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地藏崎ニ至ル

線内及ヒ長門國觀音崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ至ル線内

第五區 削除

第六區 伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地藏崎ニ至ル線内及ヒ土佐國足摺崎ヨリ日向國內海ニ至ル線内

第七區 土佐國室戸崎ヨリ足摺崎ニ至ル線内

第八區 日向國內海ヨリ大隅國種子島、屋久島、口永良部島及ヒ黒島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内

第九區 薩摩國野間岬ヨリ甑列島及ヒ肥前國野母崎ヲ經テ三重崎ニ至ル線内

第十區 肥前國野母崎ヨリ五島列島及ヒ的山大島ヲ經テ平戸海峽ニ至ル線内

第十一區 肥前國平戸海峽ヨリ壹岐島及ヒ對馬島ヲ經テ筑前國岩屋崎ニ至ル線内

第十二區 對馬島沿岸、對馬島北端ヨリ朝鮮蔚崎ニ至ル線内及ヒ對馬島南端ヨリ朝鮮鴻島ヲ經テ巨濟島コルベツト岬ニ至ル線内

第十三區 長門國觀音崎ヨリ角島及ヒ見島ヲ經テ石見國溫泉津ニ至ル線内

第十四區 石見國溫泉津ヨリ隱岐列島ヲ經テ因幡國加露ニ至ル線内

第十五區 因幡國賀露ヨリ越前國三國ニ至ル線内

第十六區 越前國三國ヨリ能登國輪島崎ニ至ル線内

第十七區 能登國輪島崎ヨリ舩倉島及ヒ佐渡島ヲ經テ越後國新潟ニ至ル線内

第十八區 越後國新潟ヨリ佐渡島及ヒ羽後國飛島ヲ經テ酒田ニ至ル線内

第十九區 羽後國酒田ヨリ飛島及ヒ陸奥國久六島ヲ經テ深浦ニ至ル線内

第二十區 陸奥國深浦ヨリ渡島國小島ヲ經テ江良町ニ至ル線内及ヒ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内

第二十一區 渡島國江良町ヨリ後志國尻島ヲ經テ茂津多岬ニ至ル線内

第二十二區 後志國茂津多岬ヨリ神威岬ヲ經テ積丹岬ニ至ル線内

第二十三區 後志國神威岬ヨリ積丹岬ヲ經テ天塩國留萌ニ至ル線内

第二十四區 天塩國留萌ヨリ天賣島ヲ經テ天塩ニ至ル線内

第二十五區 天塩國天塩ヨリ北見國利尻島及ヒ禮文島ヲ經テ宗谷岬ニ至ル線内

北見國知床岬ヨリ千島國國後島、色丹島、アキユリ島ヲ經テ

- 根室國納沙布埼ニ至ル線内
- 第二十五區ノ二 根室國納沙布埼ヨリ落石埼及ヒ釧路國尻羽埼ヲ經テ十勝國大津ニ至ル線内
- 第二十六區 後志國苫小牧ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十七區 陸奥國八戸馬淵川口ヨリ陸前國金華山ヲ經テ花淵埼ニ至ル線内
- 第二十八區 大隅國奄美大島沿岸及ヒ奄美群島間
- 第二十九區 沖繩島沿岸及ヒ沖繩群島間
- 第五十二條 平水航路トハ湖川港内及ヒ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ
- 第一區 相模國觀音埼ヨリ上總國富津ニ至ル線内
- 第二區 駿河國三保埼ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内
- 第三區 三河國伊良湖埼ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内
- 第四區 紀伊國宮崎ヨリ加太浦ニ至ル線内
- 第五區 紀伊國友ヶ島水道及ヒ播磨國明石瀬戸以内ノ沿岸
- 第六區 播磨國室津ヨリ小豆島大角鼻ヲ經テ讚岐國小田鼻ニ至ル線内及ヒ讚岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内
- 第七區 讚岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内及ヒ伊豫國梶取埼ヨリ

- 岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内
- 第八區 伊豫國梶取埼ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内及ヒ伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島ヲ經テ上ノ關ニ至ル線内
- 第九區 豊後國地藏埼ヨリ美濃埼ニ至ル線内
- 第十區 豊後國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及ヒ筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内
- 第十一區 筑前國西浦三埼ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十二區 筑前國鹿家埼ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内
- 第十三區 對馬國唐洲埼ヨリ郷埼ニ至ル線内
- 第十四區 肥前國津埼ヨリ鷹島ヲ經テ值賀埼ニ至ル線内
- 第十五區 肥前國向後埼ヨリ番所埼ニ至ル線内
- 第十六區 肥前國七郎埼ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ埼ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬埼ヨリ平戸島魚見埼ニ至ル線内
- 第十七區 肥前國野母埼ヨリ三重埼ニ至ル線内
- 第十八區 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島埼ニ至ル線内
- 第十九區 肥後國天草島牛深港及ヒ黒瀬戸以内
- 第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内

- 第二十區ノ二 檜岐國島前、中井口、木路口及ヒ赤灘口以内
- 第二十一區 出雲國地蔵崎ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内
- 第二十二區 丹後國鷲崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内
- 第二十三區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内
- 第二十四區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内
- 第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内
- 第二十六區 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内
- 第二十七區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内
- 第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内
- 第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内
- 第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内
- 第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル汽船ハ第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限リ二區ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得
- 第五十四條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル帆船ハ第五十一條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限リ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得
- 第五十五條 沿海航路ヲ航路定限ト爲ス帆船ニシテ第五十一條ニ掲ケタル區域中第二區ヲ土佐國室戸崎マテ、第二十五區ヲ擇捉島沿岸マテ延長セントスルトキ又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス船舶ニシテ第五十二條ニ掲ケタル

湖川港ヨリ其ノ船舶ノ最快速力ヲ以テ二時間以内ニ往復シ得ヘキ平水航路外ノ場所ヘ航行セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ管海官廳ヘ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

- 第五十五條 各船舶ノ航路定限ハ検査官吏ニ於テ當該船舶カ申請ノ航路ニ堪フルヤ否ヤヲ査覈シ前六條ニ掲ケタル區域以内ニ於テ之ヲ定ム
- 検査官吏ニ於テ申請ノ航路カ季節ニ依リテ危険アリト認ムルトキハ期間ヲ附シテ航路定限ヲ定ムヘキモノトス
- 第五十六條 船舶ノ航行期間内ニ於テ航路ヲ變更セントスル者ハ申請書ニ新舊航路定限ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出シ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第七章 旅客定員

- 第五十七條 旅客定員ハ船舶ノ航路ニ依リ附錄旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ從ヒ各室毎ニ之ヲ算定ス
- 第五十八條 船舶ニ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ二年以上五年未滿ノ者ハ四人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス
- 第五十九條 左ニ掲クル者ハ旅客ト看做サス但シ第一號及ヒ第二號ニ掲クル

者カ旅客室内ニ在ルトキハ旅客定員ニ算入ス

一 船舶所有者、船舶管理人及ヒ船舶借入人

二 船員ニ在ラスシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者

三 航行中ニ救助セラレタル者

第六十條 船長ハ各旅客室毎ニ見易キ場所ヲ選ヒ該室ノ等級及ヒ旅客定員ヲ

表示スヘシ

三等旅客室ニ客棚ヲ設クルモノニ在リテハ船長ハ各室ニ見易キ場所ヲ選ヒ

客棚毎ニ其ノ旅客定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲クヘシ

第六十一條 船長ハ旅客室ト船員常用室トヲ常ニ區別シ置クヘシ

第六十二條 旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ旅客定員ハ貨物ノ面積

ニ對スル割合ニ依リ減少スヘキモノトス

第六十三條 船舶ノ航行期間内ニ於テ旅客定員ヲ變更セントスル者ハ申請書

ニ事由ヲ具シ船舶検査手帖ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第六十四條 近海航路以下ノ航路ニ於テ臨時ニ多數ノ漁夫、移住民若ハ出稼

人ヲ運送セントスルトキハ検査申請人ハ最寄管海官廳ニ申請シ其認可ヲ受

ケ第三十一條ノ手續ニ依ラスシテ附錄臨時旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ

依リ旅客ニ搭載スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項

ヲ記載シタル申請書ニ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

一 旅客ノ種類及ヒ員數

二 航行里程

三 平均速力

四 發航港、寄港港、到達港

五 豫定航海期間

六 旅客室ニ充ツヘキ場所

七 船舶検査證書ニ記載セル航行期間

八 船舶検査證書ニ記載セル航路制限

第六十六條 管海官廳ハ前條ノ申請ヲ認可シタルトキハ旅客定員ヲ定メ第六

號書式ノ臨時旅客定員證書ヲ申請人ニ交付ス

臨時旅客定員證書ハ第四十四條ノ規定ニ依リ船内ニ掲ケ置クヘキ證書ト並

ヘ掲クヘシ

第六十六條ノ二 軍隊ヲ運送セントスルトキハ輸送擔任部隊ヨリ最寄管海官

廳ニ請求シ第三十一條ノ手續ニ依ラスシテ附錄臨時旅客定員算出表ニ定ム

ル割合ニ依リ之ヲ搭載スルコトヲ得

前項ノ場合ニ依リ第六十五條ノ規定ニ依リ船舶検査手帖ヲ管海官廳ニ差出

スコト能ハサルトキハ軍隊ヲ搭載スル場所ノ略圖ヲ以テ之ヲ代用スルコト

ヲ得

前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ準用ス

第六十七條 第四十七條ノ規定ハ臨時旅客定員證書カ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 臨時旅客定員證書ハ船長ニ於テ當該航海ヲ終リタル日ヨリ起算シ三日以内ニ其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第八章 汽壓制限

第六十九條 船舶ノ汽壓制限ハ検査官吏ニ於テ機關ノ現状ニ應シ船舶検査規程ニ依リ之ヲ定ム

第七十條 検査官吏ニ於テ安全瓣ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

第七十一條 船長ハ安全瓣ノ鍵ヲ封緘ノ儘船内ニ保管スヘシ

船長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封スルコトヲ得ス

安全瓣ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全瓣ノ鍵ヲ開封シタルトキハ最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全瓣ノ封鎖ヲ申請スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九章 航行期間

第七十二條 船舶ノ航行期間ハ船舶ノ現状ニ應シ船舶検査法第四條ノ規定ニ依リ検査官吏之ヲ定ム

第十章 再検査

第七十三條 船舶検査法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ再検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及ヒ其ノ理由ヲ列記シタル事由書ヲ添附シ検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ再検査ノ申請書ノ受理シタルトキハ前検査ヲ行ヒタル検査官吏ヲシテ再検査申請ノ理由ニ對スル意見書ヲ調製セシメ申請書ト共ニ遞信大臣ニ進達スヘシ

第七十四條 遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト決定シタルトキ又ハ再検査ノ申請人若ハ其ノ被雇者カ再検査ノ決定前ニ船舶ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト決定シタルトキハ特ニ検査官吏ヲ命シテ再検査ヲ行ハシメ前検査ヲ失當ナリト認メタルトキハ之ヲ取消シ該

検査官吏ノ報告ニ原キ更ニ當該管海官廳ヲシテ船舶検査證書、假證書其ノ他検査ニ必要ナル證書ヲ申請人ニ交付セシム

第十一章 雜則

第七十五條 船舶ノ航行期間内ニ於テ左ニ掲クル場合ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ其旨管海官廳ニ届出ツヘシ

- 一 船舶ヲ入渠若ハ上架セントスルトキ
- 二 船体又ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セントスルトキ
- 三 汽機、發動機若ハ汽鐘ヲ取放シタルトキ又ハ螺旋軸ヲ拔出シタルトキ

第七十六條 船舶検査證書、適航證書、回航認可證書若ハ臨時旅客定員證書ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ船舶検査證書ノ裏書ヲ受ケタルトキハ汽船ニ在リテハ貳圓、帆船ニ在リテハ壹圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第四十六條第一項ノ規定ニ依リ船舶検査手帖ノ再交付ヲ受ケタルトキハ汽船ニ在リテハ五圓、帆船ニ在リテハ參圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第七十七條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼付シ

テ之ヲ納付スヘシ
手数料納付書ニ貼付シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第七十八條 船舶検査執行地以外ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキハ検査申請人ハ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費及ヒ日當ヲ納付スヘシ但シ船舶法施行細則第五十三條ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ検査ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 前三條ノ規程ハ官廳ノ請求ニ依リテ検査ヲ行ヒ又ハ書類ヲ交付スル場合ニ之ヲ適用セス

第十二章 罰則

第八十條 左ノ場合ニ該當スル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第五章ノ規定ニ依リ船舶検査證書假證書ノ書換ヲ申請セサルトキ又船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書若ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ
- 二 第三十二條第二項ノ規定ニ反シ若ハ貨物ヲ搭載シ又ハ三十三條ノ規定ニ反シ回航認可證書ヲ受ケスシテ旅客又ハ貨物ヲ搭載シ又ハ第三十五條若ハ第三十六條ノ規定ニ反シ回航認可證書ニ明許ヲ受ケスシ

- 三 第四十四條、第六十條又ハ第六十六條第二項ノ規定ニ反シ船舶検査證書、假證書、通航證書、回航認可證書、船長ノ氏名、旅客室ノ等級、旅客定員三等客棚配置圖又ハ臨時旅客定員證書ヲ表示セサルトキ
- 四 第四十五條第二項ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管セサルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ノ封緘ヲ開封シタルトキ
- 五 第四十六條ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ノ封筒ノ封緘ヲ申請セサルトキ
- 六 第六十一條ノ規定ニ反シ旅客室ト船員常用室トヲ區別シ於カサルトキ
- 七 第六十八條ノ規定ニ反シ臨時旅客定員證書ノ返還ヲ怠リタルトキ
- 八 第七十一條第一項ノ規定ニ反シ安全辨ノ鍵ヲ船内ニ保管セサルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ反シ安全辨ノ鍵ノ封緘ヲ開封シタルトキ
- 九 第七十一條第三項ノ規定ニ反シ安全辨ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ安全辨ノ鍵ノ封緘ヲ開封シタル場合ニ於テ更ニ封鎖ノ申請ヲ爲サ、ルトキ

十 第七十五條ノ規定ニ反シ届出ヲ爲サ、ルトキ

第八十一條 本章ノ規定中船長ニ適用スハキモノハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第八十二條 本章ノ規定中船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ニ適用スハキモノハ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ其ノ者ノ罪ヲ論スヘカラサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者又ハ清算人ニ之ヲ適用ス

附 則

- 第八十三條 本則ハ明治三十三年法律第五十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第八十四條 明治三十年^五月^五日^五遞信省令第六號船舶検査法施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第八十五條 本則施行前明治三十年^六月^六日^六遞信省令第十二號船舶検査規程ニ依リ行ヒタル特別検査及ヒ定期検査ハ本則施行ノ後ト雖モ本則ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラル、コトナシ
- 第八十六條 本則施行ノ際明治三十年^五月^五日^五遞信省令第六號船舶検査法施行細則ノ規定ニ依リテ受有スル船舶検査證書、假證書、回航認可證書及ヒ別種旅客室検査證書ハ本則ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラル、コトナシ

○船舶検査法施行細則

明治四十三年七月一日遞信省令第六十五號ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ三年未滿ノ特別検査期間ヲ有スル船舶ニシテ現狀ノ特ニ不良ナルモノニ付テハ本令施行後ト雖モ二年以上三年未滿ノ範圍ニ於テ特別検査ヲ行フコトヲ得

附錄 旅客定員算出表略ス
第一號乃至第六號 船舶検査證書等様式略ス

◎船舶検査規程

明治三十三年公布
大正元年十二月迄數度改正 (省令)

第一編 總則

第一條 此ノ規定中鐵船ニ關スル規定ハ鋼船ニ亦之ヲ適用ス
第二條 此ノ規定ニ於テ旅客船ト稱スルハ十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶、移民船ト稱スルハ船舶検査法施行細則第十一條ニ該當スル船舶ヲ謂フ
第三條 此ノ規程ニ於テ旅客室ト稱スルハ旅客船ノ旅客室ヲ謂フ
第四條 明治三十五年一月一日以後ニ製造スル船體及ヒ機關ノ検査ハ此ノ規程ノ外鐵船ノ船體ニ於テハ鐵鋼船検査規程、噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル木船ノ船體ニ於テハ木船検査規程、機關ニ於テハ機關検査規程ニ依リ之ヲ執行スヘシ但材料試験ハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

鐵鋼船検査規程、木船検査規程及ヒ機關検査規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 定期検査ニ於テハ船體、機關及ヒ屬具ノ現狀、旅客室及ヒ船員常用室、旅客及ヒ船員ニ關スル設備ヲ検査スヘシ

第五條 特別検査ニ於テハ前條ニ掲クルモノ、外船體、機關及ヒ屬具ノ構造並ニ定期検査ニ於テ検査セサル部分ノ現狀ヲ検査スヘシ

平水航路ノ船舶ニ付テハ總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除クノ外第二回以後ノ特別検査ハ定期検査ニ準シ之ヲ執行ス但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 検査官吏船舶ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

- 一 第一級船
- 二 第二級船
- 三 第三級船
- 四 第四級船

船舶検査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ資格ハ定期検査ニ於テ之ヲ定ムヘシ
検査官吏ニ於テ定期検査若ハ臨時検査執行ノ際船舶ノ資格ニ變更ヲ生シタリト認ムルトキ更ニ資格ヲ定ムヘシ

○船舶検査規程

第七條 船體ノ要部カ鐵鋼船検査規程又ハ木船検査規程ニ合格スル船舶ニ於テハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一 第一級船	汽船	上甲板下噸數	五百噸以上
	帆船	最速力	八節以上
二 第二級船	汽船	上甲板下噸數	五十噸以上
	帆船	最速力	八節以上
三 第三級船	汽船	上甲板下噸數	二十噸以上
	帆船	最速力	六節以上
四 第四級船	汽船	上甲板下噸數	無制限
		最速力	同

明治三十五年一月一日以前ニ製造シタルモノニシテ船體要部ノ或部分カ鐵鋼船検査規程又ハ木船検査規程ニ合格セサル船舶ニ於テハ検査官吏カ航行ニ差支ナシト認ムルトキハ検査官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ
木鐵交造船及ヒ石敷ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ第一項ノ標準ニ準シ検査官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ

甲板ヲ有セス又ハ頂部ヲ水密ニ爲シ得サル船舶ニ於テハ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ス但石敷ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ此ノ規程施行後五年間ハ此ノ限ニ在ラス
進水後二十五年以上ノ船舶ニシテ外板其ノ他要部ノ衰耗著シク從來ノ資格ヲ繼續シ得サル疑アルモノニ於テハ検査官吏ハ其ノ衰耗ノ程度ヲ精査シタル報告書ニ意見ヲ具シ遞信大臣ノ指揮ヲ受ケ其ノ資格ヲ定ムヘシ

第八條 検査官吏船舶ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ船體又ハ機關、特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ
鐵船ノ船體、木船ノ船體又ハ機關ニ於テハ左ノ標準ニ依リ特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ但大修繕ヲ加ヘタルモノ、現狀ノ特ニ良好ナルモノ又ハ現狀ノ特ニ不良ナルモノニ於テハ検査官吏ハ其ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

鐵船船體	進水後十五年未滿ニシテ其ノ要部造船規程ニ合格セルモノ	五年
	進水後十年未滿ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ	五年
	進水後十五年以上二十七年未滿ニシテ其ノ要部造船規程ニ合格セルモノ	四年
	進水後十年以上十八年未滿ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ	三年
	進水後二十七年以上ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ	三年

二 木船船體

進水後十年未滿ニシテ其要部ニ木船検査規程ニ定ムル甲材又ハ乙材ヲ用キ且該規程ニ合格セルモノ 五年

進水後十年以上十八年未滿ニシテ其要部ニ木船検査規程ニ定ムル甲材又ハ乙材ヲ用キ且該規程ニ合格セルモノ 四年

進水後十二年未滿ニシテ其要部ニ木船検査規程ニ定ムル丙材又ハ丁材ヲ混用シ且該規程ニ合格セルモノ 四年

進水後十八年以上ニシテ其要部ニ木船検査規程ニ定ムル甲材又ハ乙材ヲ用キ且該規程ニ合格セルモノ 三年

進水後十二年以上ニシテ其要部ニ木船検査規程ニ定ムル丙材又ハ丁材ヲ混用シ且該規程ニ合格セルモノ 三年

三 機關

甲 汽機及汽鐘
製造後十五年未滿ニシテ其要部造船規程ニ合格セルモノ 五年

製造後十年未滿ニシテ其要部機關検査規程ニ合格セルモノ 四年

製造後十五年以上二十七年未滿ニシテ其要部造船規程ニ合格セルモノ 四年

製造後十年以上十八年未滿ニシテ其要部機關検査規程ニ合格セルモノ 三年

製造後二十七年以上ニシテ其要部造船規程ニ合格セルモノ 三年

乙 發動機

第三十八條又ハ第九十九條及ヒ第一百五條ニ掲クル各時期ニ検査ヲ受ケ製造シタル船體又ハ機關(發動機ヲ除ク)製造後十年未滿ノモノニ限り各特別検査ノ期間ヲ一年ツ、延長スルコトヲ得 三年

第四級船ノ船體又ハ機關ハ検査官吏ノ見込ニ依リ第二項ノ標準ニ拘ラス六箇年ノ期間ヲ附與スルコトヲ得

進水年月又ハ製造年月ノ明ナラサルモノハ検査官吏ノ認定ニ依ル

明治三十五年一月一日以前ニ製造シタル船舶ニシテ船體又ハ機關ノ要部ノ或部分カ鐵鋼船検査規程、木船検査規程又ハ機關検査規程ニ合格セサルモノニ於テハ検査官吏カ航行ニ差支ナシト認ムルトキハ検査官吏ノ相當ト認ムル期間ヲ定ムヘシ

木鐵交造船ノ船體及ヒ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ第二項ニ準シ検査官吏ノ相當ト認ムル期間ヲ定ムヘシ但石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船

○船舶検査規程

船ニ於テハ其ノ期間ハ四年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 第七條及ヒ第八條ニ掲クル船體ノ要部トハ鐵船ニ於テハ外板、甲板、肋骨、梁、諸内龍骨、諸縱通材、二重底、支水隔壁及ヒ以上各部ノ固着方、木船ニ於テハ外板、甲板、肋骨、梁、梁曲材、諸内龍骨、諸縱通材、斜帶板及ヒ以上各部ノ固着方並ニ固着釘ヲ謂フ

第八條ニ掲クル機關ノ要部トハ汽笛、吸鑄鐸、接續鐸、滑瓣鐸、車軸並ニ曲拐栓、胴板、鏡板、管板、燃燒室諸板、支柱類、支梁、火爐、正汽管及給水管ヲ謂フ

第十條 船舶ノ航路定限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

第一級船 遠洋航路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路

第二級船 近海航路、沿海航路又ハ平水航路

第三級船 沿海航路又ハ平水航路

第四級船 平水航路

資格未定ノ船舶ニ於テハ検査官吏ニ於テ該船舶カ申請ノ航路ニ堪フルト認ムルモノニ限リ其ノ航路定限ヲ定ム

第十一條 移民船検査ニ於テハ旅客室、端艇、救命具、消防具其ノ他旅客ニ關スル設備ヲ検査スヘシ

外國船舶ノ移民船検査ニ於テハ前項ニ掲クルモノ、外船體、機關及ヒ屬具ノ現狀ヲ検査スヘシ但該船舶カ其ノ所屬國政府若ハ相當ノ技能ヲ有スル者ヨリ特別検査若ハ定期検査ヲ行ヒタルコトヲ證スル書類ヲ受有スルトキハ検査官吏ニ於テ特ニ必要ナシト認ムル場合ニ限リ第一項ニ掲クルモノ、外検査ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ船體、機關及ヒ屬具ノ検査ヲ施行シタル外國船舶ニ於テハ其ノ検査以後一年間ハ第一項ニ掲クルモノ、外検査ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 臨時検査ニ於テハ船舶検査法施行細則第九條ニ規定スル各號ノ區別ニ從ヒ検査官吏ノ必要ト認ムル部分ニ限リ検査ヲ爲スヘシ

船舶検査法施行細則第六十四條及ヒ第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ノ検査ニ於テハ旅客室、端艇、救命具、消防具其ノ他旅客ニ關スル設備ヲ検査スヘシ

第十三條 特別検査ニ於テハ船舶ヲ入渠若ハ上架セシメテ之ヲ執行スヘシ但シ沿海航路ノ帆船ハ据船ノ上之ヲ執行シ又湖川ノミヲ航行スル船舶、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水航路ノ船舶ハ碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

省略スルコトヲ得

一 第二級船以下ノ旅客船ニアラサル汽船ノ第二回以後ノ特別検査ヲ執行スルトキ

二 第四級船ノ特別検査ヲ執行スルトキ

三 検査官吏ニ於テ船舶ノ現速力カ前回試験ニ依リ得タル速力ト單位以上ノ異動ナシト認ムルトキ

前項但書ノ規定ニ依リ速力試験ヲ省略シタルトキハ試運轉ヲ執行スヘシ

第十四條 第二回以後ノ特別検査ニ於テハ其ノ以前二年以内ニ特別検査ノ手續ヲ執行シタル部分ハ検査官吏ノ見込ニ依リ其ノ部分ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

汽機、發動機若ハ汽鐘ヲ入換ヘタルトキハ特別検査ニ準シ之ヲ検査スヘシ但此ノ場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメサルモ妨ナシ

第十四條ノ二 近海航路以上ノ航路ニ於テ定期航海ニ従事スル船舶ニシテ年齢十五年未滿ノモノノ第二回以後ノ定期検査ニ於テハ其ノ以前三箇月以内ニ定期検査ノ手續ヲ執行シタル左ノ部分ハ検査官吏ノ見込ニ依リ其部分ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

一 船體 船艙、二重底、水艙、油艙、石炭庫、船底及舵

二 機關 螺旋軸、推進器、船尾管、汽鐘及ヒ船底ニ屬スル瓣及ヒ嘴子

第十五條 定期検査及ヒ臨時検査ニ於テ左ノ場合ニ該當スル船舶ハ之ヲ入渠若ハ上架セシメテ船底又ハ螺旋軸ヲ検査スヘシ但外國ニ於テ検査ヲ受ケタル船舶ニ於テハ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スルトキニ限り、船舶

検査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶、湖川ノミヨ航行スル船舶及ヒ總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水航路ノ船舶ニ於テハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

一 特別検査期ノ間四年以上ナル鐵船ニ於テ前回ノ船底検査以後二年ニ達シタルトキ

二 特別検査ノ期間四年未滿ナル鐵船ニ於テ前回ノ船底検査以後一年六箇月ニ達シタルトキ

三 鐵製旅客汽船ニ於テ前回ノ船底検査以後一年ニ達シタルトキ

四 適當ナル船尾管注油装置及ヒ全通燒嵌黃銅卷ヲ施セル螺旋軸ヲ有スル船舶ニ於テ前回該軸ヲ拔取リテ検査シタル以後三年ニ達シタルトキ

五 造船規程ニ合格シタル螺旋軸ヲ有スル船舶ニ於テ新ニ取附ケタル以後六年ニ達スル迄ハ前回該軸ヲ拔取リテ検査シタル以後三年ニ達シタルトキ

○船舶検査規程

六 發動機ヲ有スル船舶ニ於テ前回螺旋軸ヲ拔取リテ検査シタル以後三年ニ達シタルトキ

七 第四號乃至第六號以外ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニ於テ前回該軸ヲ拔取リテ検査シタル以後二年ニ達シタルトキ

前項各號ニ規定スル期間ニハ三箇月ヲ超エサル範圍内ニ於テ特別検査及ヒ定期検査ニ要シタル時日ヲ算入セス

平水航路ノ船舶ニシテ螺旋軸ノ検査ヲ要スルモノハ碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第十六條 船舶ノ航行期間ハ前條ノ期限及ヒ特別検査ノ期限ヲ超過セサル様検査官吏之ヲ定ムヘシ

第十七條 定期検査及ヒ臨時検査ニ於テ検査官吏必要ト認ムルトキハ船舶ノ入渠若ハ上架ヲ命スルコトヲ得

第十八條 検査官吏必要ト認ムルトキハ定期検査及ヒ臨時検査ニ於テ船舶ノ試運轉ヲ命スルコトヲ得

第十九條 検査官吏ハ船舶ノ大小、年齢及ヒ現状ニ依リ第二十四條第一號乃至第四號、第二十五條、第三十四條第一號及ヒ第三號、第三十五條、第九十六條第一號乃至第三號及ヒ第九十七條ニ規定スル検査準備ヲ變更若ハ増減セシムルコトヲ得

沿海航路ノ帆船、平水航路ノ船舶ニ於テハ前項ノ外検査官吏ハ船舶ノ構造ニ依リ第二十七條、第二十八條及ヒ第二十九條ニ規定スル検査準備ヲ變更若ハ増減セシムルコトヲ得

進水後十五年未滿ノ船舶ニ於テハ検査官吏ハ第二十七條第一號及ヒ第二號第二十八條第一號及ヒ第二號並ニ第二十九條第一號乃至第三號ニ規定スル検査準備ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

第二十條 検査官吏ハ此ノ規程ニ規定セサルモノニ付テハ航行ノ安全ヲ目的トシ船體、機關、屬具、旅客室及ヒ船員常用室並ニ旅客及ヒ船員ニ關スル設備ノ適否ヲ認定スヘシ

第二十一條 船體、機關又ハ屬具ノ構造方法此ノ規定ニ該當セサルモ検査官吏ニ於テ之ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

本規程ニ該當セサル船體、機關又ハ屬具ノ構造ノ適否及ヒ検査方法ハ船舶ノ種類又ハ使用ノ方法ニ依リ遞信大臣之ヲ定ム

第二十二條 船體並ニ機關ノ材料ニシテ鋼ト鐵トヲ區別シ能ハサルトキハ之ヲ鐵ト看做ス

第二十三條 此規程ニ定ムル水壓試驗ハ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スル船舶ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

第二十三條ノ二 漁船ノ検査ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第二編 船體部

第一章 検査準備

第一節 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶

第二十四條

碇泊シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲナスヘシ

一 船體ノ内外適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト

二 石炭及ヒ荷足ヲ取出シ船體ニ固著セサル物品ハ成ルヘク取片付ケ又塗水道覆板及ヒ通風路覆板ハ悉ク取除ケ船體ノ内外部ヲ總テ掃除スルコト

三

主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ニ航行スル汽船ニ於テハ食品其他雜品置場、庖厨船艙等鼠族ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠族ノ驅除ヲ行ヒ又塗水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ又飲水函

四 ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ若ハ熱蒸汽ヲ通シテ掃除ヲ行フコト
二 重底及ヒ水艙ハ出入口ヲ開キ其ノ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ檢閲ニ支障ナカラシムルコト

五 船體屬具ノ中取外サ、レハ検査シ得サルモノハ之ヲ取外シ手用塗水唧筒、手用消防唧筒及ヒ操舵機具等ハ所屬具ヲ取揃ヘ置キ錨鎖、大索、船燈、信號器、救命具其ノ他航海ノ要具ハ總テ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト

六 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ヘ置クコト
七 帆船ニ於テハ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ヘキ準備ヲ爲スコト

第二十五條 入渠若ハ上架シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ前條ニ掲クル準備ノ外鐵船ハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ搔落シ塗料ヲ搔落シ木船及ヒ木鐵交造船ハ船底包板ノ幾部ヲ剝去シ外板ノ現狀、填隙及ヒ固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムヘシ

第二十六條 特別検査ノ準備ハ之ヲ分チテ左ノ三種ト爲ス

一 第一種準備

二 第二種準備

○ 船舶検査規程

三 第三種準備

第二十七條

第一種準備ニ於テハ第二十四條及ヒ第二十五條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ

一 鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ内張板一條ツ、及ヒ彎曲部ニ於テ兩舷トモ内張板一條ツ、取離スコト

木船ニ於テハ船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ船ノ長ノ五分ノ一ノ間内龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ内張板一條ツ、取離スコト

二 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上ツ、扳取ルコト但木船ニ於テ該敲釘カ外板ヲ貫通セサルトキハ兩舷トモ該部ノ外板一枚ツ、取離スコト

木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ固著釘カ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ敲釘又ハ螺釘ヲ扳取ルコト

三 木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板及ヒ其ノ他ノ外板ニ於テ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ木釘ヲ扳取ルコト但木釘ナキ部分ニ於テハ鐵

三ノ二 揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

四ノ二 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト

四ノ二 二重底及ヒ水艙ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト

四ノ二 艙口ノ水密裝置ヲ検査シ得ヘキ準備ヲナスコト

五 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ半分ヲ剥去スルコト

六 舵ヲ取外スコト

七 揚錨機及ヒ操舵機具ヲ取外スコト

八 錨鎖ヲ船外ニ陳列スルコト

九 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト

第二十八條 第二種準備ニ於テハ第二十四條及ヒ第二十五條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ

一 鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ内張板二條乃至三條ツ、彎曲部ニ於テ兩舷トモ内張板一條ツ、取離スコト

木船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ第一肋材ノ頭部又ハ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ノ一條ヲ取

○ 船舶検査規程

百三十七

- 二 離シ船ノ首尾ヲ通シテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條ツ、取離シ且船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ外板ヲ一枚ツ、取離スコト
木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ各層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上ツ、採取ルコト但木船ニ於テ該螺釘ナ外板ヲ貫通セサルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ各層梁ノ位置ニ於テ一枚ツ、取離スコト
木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ固著釘カ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ敲釘又ハ螺釘ヲ採取ルコト
- 三 木船ニ於テハ上部外板、水線部外板、彎曲部外板及ヒ其ノ他ノ外板ニ於テ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ木釘ヲ採取ルコト但木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
- 三ノ二 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト
- 四 二重底及ヒ水壓ノ試験ノ準備ヲ爲スコト
- 四ノ二 艙口ノ水密裝置ヲ検査シ得ヘキ準備ヲ爲スコト
- 五 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ全部ヲ剝去スルコト

- 六 舵ヲ取外スコト
- 七 揚錨機及ヒ操舵機具ヲ取外スコト
- 八 錨鎖ヲ船外ニ陳列スルコト
- 九 其ノ他検査官吏ノ指揮 從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
- 第二十九條 第三種準備ニ於テハ第二十四條及ヒ第二十五條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ

- 一 鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ内張板ヲ半分取離スコト
木船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ第一肋材ノ頭部ニ於テ又ハ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板ヲ一條ツ、取離スコト且船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ船ノ長ノ五分ノ一ノ間内張板ヲ半分取離スコト
- 二ノ二 石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト
- 二 木船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ兩舷トモ上部外板一條ツ、船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ外板一枚ツ、及ヒ帆船ニ於テハ「チエインボルト」ノ貫通セル外板ヲ取離スコト
木鐵交造船ニ於テハ彎曲部鐵板、斜帶板及ヒ肋骨ノ背面ヲ検査スル

三

爲ノ彎曲部ニ於ケル外板ヲ中央ヨリ船首片舷ニ一條中央ヨリ船尾他
舷ニ於テ一條取離スコト
木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ各層梁
ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上ツ、拔取ルコト
但木船ニ於テ該敲釘カ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板
ヲ各層梁ノ位置ニ於テ一枚ツ、取離スコト
木船及ヒ木鐵交造船ノ龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ固著釘カ鐵敲釘又
ハ鐵螺釘ナルトキハ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ敲釘又ハ螺釘ヲ拔
取ルコト

四

木船ニ於テハ上部外板、水線部外板、彎曲部外板、底部外板及ヒ其
ノ他ノ外板ニ於テ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ木釘ヲ拔取ルコト但
木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
鐵船ニ於テハ船體内外ノ全部、木鐵交造船ニ於テハ鐵部ノ全部ヲ鋪
落スルコト

五

木船ニ於テハ上甲板梁壓材、船鰐、船口ノ縁材及ヒ上部外板ノ塗料
ヲ搔落スコト
鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テ上甲板梁、船鰐、船口ノ縁材及ヒ上部外

六

板カ木製ナルトキハ其ノ塗料ヲ搔落スコト
前回特別検査以後ニ於テ錆落ヲ爲シタルトキハ其ノ検査ヲ受ケタル
部分ニ限リ本號ノ規定ニ拘ハラズ錆落又ハ搔落ヲ省略スルコトヲ得
鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲メ其ノ上面ノ木
甲板ヲ検査官吏ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト
木船ニ於テハ梁端ヲ検査スル爲メ梁壓材ニ接スル甲板ヲ検査官吏ノ
指示スル部分ニ於テ取離スコト

六

六ノ二 汽鐘ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト

七

七ノ二 二重底及ヒ水艙ノ水壓試験 準備ヲ爲スコト

八

八ノ二 艙口ノ水密装置ヲ検査シ得ヘキ準備ヲ爲スコト
木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ全部ヲ剝去スルコ
ト但前回特別検査以後ニ於テ全部ヲ剝去シ検査ヲ受ケタルトキハ其
幾分ニ止ムルコトヲ得

九

九ノ二 舵ヲ取外スコト
橋及ヒ斜橋ノ楔ヲ拔取ルコト但鐵製ニシテ二重張板ヲ有スルモノハ
此ノ限ニ在ラス

十

十ノ二 揚錨機及ヒ操舵機具ノ要部ヲ取外スコト

○船則検査規程

十二 錨鎖ヲ船外ニ陳列スルコト

十三 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト

第二十九條ノ二 進水後二十五年以上ノ船舶ノ第三種準備ニ於テハ前條ニ掲クルモノノ外左ノ準備ヲ爲スヘシ但シ其ノ以前本準備ニ對スル検査ヲ受ケタル部分ニ付テハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一 檣及ヒ斜檣ノ楔ヲ拔取ルコト

二 檣及ヒ斜檣用靜索ノ端末ヲ檢スル爲メ被覆物ヲ取離スコト

三 鐵船ニ於テ外板衰耗ノ程度ヲ検査スル爲メ船底ヨリ舷端ニ至ル迄外板各條ニ三箇以上ノ小孔ヲ錐揉スルコト但シ「セメント」ヲ以テ蔽被セル船底外板ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條

船舶ノ第一回特別検査及ヒ此ノ規程施行以前ニ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ此ノ規程施行以後初メテ受クル特別検査ニ於テハ進水後五年未滿ナルトキハ第一種準備十年未滿ナルトキハ第二種準備、十年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スヘシ但此ノ規程施行以前ニ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ此ノ規程施行以後初メテ受クル特別検査ニ於テハ船舶ノ現狀特ニ良好ナルモノニ限リ其ノ準備ヲ検査官吏ニ於テ斟酌スルコトヲ得
検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外左ノ準備ヲ爲サシムルコトヲ

ルヘシ

一 鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ中央部ニテ「二肋骨ノ間」セメント」ヲ取離スコト

二 鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ翼内龍骨及ヒ彎曲部内龍骨ノ兩側ニ於ケル内張板一枚ヲ取外スコト

三 鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鐵甲板及ヒ二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル鐵板ノ厚ヲ檢スル爲メ小孔ヲ錐揉スルコト

四 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ中央部ニテ龍骨翼板又ハ之ニ鄰接スル外板、外部腰板ニ鄰接スル外板又ハ水線ニ於ケル外板及ヒ舷側厚板ニ鄰接スル外板各一枚ヲ取離スコト

五 木船ニ於テハ船ノ中央部ニテ諸内龍骨及ヒ諸縱通材ニ鄰接スル内張板及ヒ各層梁受材、梁受板又ハ艙梁受板ニ鄰接スル内張板各一枚ヲ取離スコト

六 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ各部ヨリ固著釘ノ若干ヲ拔取ルコト

七 其他船體要部ノ寸法ヲ測ルニ必要ナル準備ヲ爲スコト

第三十一條 第三十八條ニ掲クル各時期ニ検査ヲ受ケ製造シタル船舶ノ第二回特別検査ニ於テハ第一種準備ヲ爲スヘシ

○船舶検査規程

第三十二條 第一種準備ヲ爲シテ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ次回特別検査ニ於テハ第二種準備第二種準備ヲ爲シテ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ次回特別検査ニ於テハ第三種準備、第三種準備ヲ爲シテ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ次回特別検査ニ於テハ第一種準備ヲ爲スヘシ

第三十三條 移民船検査及ヒ臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二節 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶

第三十四條 定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

- 一 艙内ヲ掃除シ船體ニ固著セサル物品ハ成ルヘク取片付ケ取外シ得ヘキモノハ總テ之ヲ取外シ腰當梁ト三ノ間梁トノ中央部ニ積ミ置クコト但積石數千石以上ノ船舶ニ於テハ舷側内部ヲ檢スル爲メ兩側ノ素板ヲ足場ニ殘シ置クコト
 - 二 檣、帆架、舵及ヒ傳馬船ヲ除クノ外屬具ハ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト
 - 三 舵ヲ引上ケ置クコト
- 第三十五條 特別検査ニ於テハ前條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ
- 一 包板、外舳、除柵、投板、臺詰ノ幾分ヲ剝去リ及ヒ腰當梁其ノ他一
 - 二ノ梁端ヲ拔出シ置クコト

- 二 檣ハ船體上ニ倒シ若ハ陸上ニ揚置クコト
 - 三 船體各部ニ於テ若干ノ釘ヲ拔取り置クコト
 - 四 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
- 第三十六條 臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二章 検査

第三十七條 特別検査ニ於テ船體、屬具ノ構造及ヒ現狀ヲ検査スルニハ左ノ

規定ニ從フヘシ

- 一 各部ノ構造ヲ調査スルコト
- 二 第二十七條乃至第三十條及ヒ第三十五條ニ規定シタル準備ニ應シ梁端又ハ梁上側板及ヒ肋骨、外板、舵、固著釘、填隙其ノ他定期検査ニ於テ検査セサル部分ノ現狀ヲ検査スルコト
- 三 検査官吏ノ必要ト認ムルトキハ外板其ノ他ニ於テ錐揉セシメ其ノ厚ヲ測ルコト
- 四 二重底及ヒ水艙ノ水壓試験ヲ相當水高壓力ヲ以テ執行スルコト
- 五 第二十七條乃至第三十條及ヒ第三十五條ニ規定シタル準備ニ應シ檣裝帆索具及ヒ金具、揚錨機、操舵機具及ヒ其ノ附屬品、唧筒類、支

水戸、排氣管、測水管、錨、錨鎖及ヒ索類ヲ検査スルコト
六 錨量ノ測定ヲ爲スコト但検査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有シ衰耗ノ著シカラサル錨ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十八條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ但石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テ臨檢スヘキ時期ハ検査官吏之ヲ定ム

- 一 龍骨、船首材及ヒ船尾材ヲ接續セントスルトキ
- 二 肋骨組成中及ヒ組成後建立セントスルトキ
- 三 内龍骨、縦通材及ヒ梁ヲ取付ケントスルトキ
- 四 甲板及ヒ外板ヲ數枚張リタルトキ
- 五 船體落成ノトキ但外板ニ填絮又ハ塗料ヲ施サ、ル前
- 六 全部完成ノトキ
- 七 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第三十九條 定期検査ニ於テハ左ノ装置及ヒ屬具ノ效力ヲ試験スヘシ但シ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ斟酌スルコトヲ得

- 一 支水戸ノ開閉

- 二 載貨門、載炭門及ヒ舷窓ノ水密
- 三 手用塗水唧筒
- 四 消防用送水管消防唧筒及ヒ布管
- 五 揚錨機及ヒ起錨機
- 六 操舵機具
- 七 羅針盤
- 八 端艇揚卸
- 九 汽笛又ハ汽角
- 十 信號火器及ヒ救命焰

第三章 船體

第四十條 木製汽船ハ機關室ノ前後ニ隔壁ヲ設ケ上甲板下ノ噸數三百五十噸以上ナルトキハ其ノ隔壁及ヒ石炭庫ノ圍壁ヲ鐵製ト爲スヘシ

第四十一條 隔壁、石炭庫ノ圍壁及ヒ船體ノ部分木製ニシテ汽罐ニ接近シ燃燒ノ虞アルトキハ之ニ石綿若ハ毛紙ヲ敷キ鉛板、鐵板若ハ亞鉛板ヲ張リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スヘシ但隔壁ト鉛板、鐵板若ハ亞鉛板トノ間ニ三吋以上ノ間隔アル場合ニハ石綿若ハ毛紙ヲ敷クヲ要セス

○船舶検査規程

石油發動機船ノ隔壁及ヒ船體ノ部分木製ニシテ發動機ニ接近シ燃燒ノ虞アルトキハ之ニ鉛板、鐵板若ハ亞鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スヘシ

電氣發動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第四十二條 木鐵交造船ノ隔壁ノ數及ヒ構造ハ鐵船ニ準スヘシ

明治三十年七月一日以前ノ製造ニ係ル木鐵交造船ニ限リ隔壁ハ正甲板ニ止メ且機關室ノ前後ニ設クルモノヲ除クノ外其ノ數ヲ減スルモ妨ナシ

第四十三條 艙内ニ於ケル水密戸ハ成ルヘク之ヲ上下ニ開閉シ得ル様取附クヘシ

第四十四條 第二級船以上ノ鐵製汽船及ヒ上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ汽船

ニ於テハ機關室ヨリ船尾車軸管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但甲板ヨリ各軸受及ヒ船尾車軸管ニ達シ得ヘキ昇降路ヲ設クルトキハ車軸隧道ハ通行シ得ヘカラサルモ妨ナシ

前項ニ掲タル車軸隧道及ヒ昇降路ハ鐵船ニ於テハ之ヲ鐵製水密ニ構造スヘシ但船尾隔壁ノ前部ニ於テ螺旋軸ノ徑ノ十二倍ヨリ少カラサル長ノ水密區畫室ヲ備フルトキハ其ノ前部ニ於ケル車軸隧道及ヒ昇降路ハ水密ナラサルモ妨ナシ

車軸隧道又ハ水密區畫室ノ前端ニ出入口ヲ設クルキハ之ニ水密戸ヲ備ヘ最

大喫水線以上ニ於テ何時ニテモ障碍ナク之ヲ開閉シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ

第四十五條 手用塗水唧筒及ヒ測水管ハ各艙ニ之ヲ設ケ唧筒管ノ端ニハ芥除

ヲ設置スヘシ但上甲板下ノ噸數三百五十噸未滿ノ木船ニ限リ各艙ニ設クルノ必要ナキトキハ各艙ヲ通シテ一箇ノ手用塗水唧筒ヲ設クルモ妨ナシ又平水航路ノ船舶ニハ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場合ニ限リ手用塗水筒及ヒ測水管ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

手用塗水唧筒ハ最大喫水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ様裝置スヘシ

手用塗水唧筒ノ上瓣及ヒ下瓣ハ蒸汽塗水唧筒ヲ裝置セサル船舶ニ於テハ各

豫備ヲ備フヘシ

第四十六條 船首隔壁ノ前部又ハ船尾隔壁ノ後部ヲ水艙トシテ使用セサルト

キハ船首隔壁ノ前部ニハ手用塗水唧筒ヲ設ケ船尾隔壁ニハ支水瓣ヲ設ケテ

船尾隔壁ノ後部ニ於ケル塗水ヲ車軸隧道ニ導クカ又ハ之ヲ他ニ排出スルノ

裝置ヲ爲スヘシ

第四十七條 機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ圍壁ヲ設ケ之ヲ上甲板

迄達セシムヘシ

第四十八條 上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口

索ハ左ノ規定ニ依リ第一號表、第二號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ

- 一 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ錨量等ヲ定ムル噸數ニ依リ之ヲ定ム錨量等ヲ定ムル噸數トハ上甲板下ノ噸數ヲ謂ヒ又上甲板上ノ船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓、低船尾樓等ヲ備フル船舶ニ於テハ其噸數ノ二分ノ一ヲ前記ノ噸數ニ加算シタルモノヲ謂フ
- 鐵船ニ於テハ錨量等ヲ定ムル噸數ニ依リ之ヲ定ム、定ムル噸トハ船ノ深ト幅トノ和ニ其ノ長ヲ乘シタルモノヲ謂フ但汽船ニシテ低船首樓又ハ低船尾樓ヲ備フルモノニ於テハ該樓ノ長ト高トヲ相乘シタル積ヲ、覆甲板、部分覆甲板、船首樓、船橋樓、船尾樓等ヲ備フルモノニ於テハ該樓ノ長ト高トヲ相乘シタル積ノ四分ノ三ヲ、船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長若ハ幅ヲ有スル甲板室ヲ備フルモノニ於テハ該室ノ長ト高トヲ相乘シタル積ノ二分ノ一ヲ前記ノ噸數ニ加算シタルモノヲ謂ヒ又帆船ニシテ船樓ヲ備フルモノニ於テハ前記ノ噸數ニ其十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ
- 船樓ノ上ニ船樓又ハ甲板室ヲ備フル船舶ニ於テハ該船樓又ハ甲板室ニ對スル積ヲ前項ノ規定ニ從ヒ加算スヘシ
- 大錨ハ其ノ合量表中ノ合量ヨリ減少セサル限リハ二箇ヲ備フヘキ船

二

- 船舶ニ於テハ内一箇ハ百分ノ七、五以内又ハ三箇ヲ備フヘキ船舶ニ於テハ内一箇ハ百分ノ十五以内、一箇ハ百分ノ七、五以内表中規定ノ單量ヨリ少量ナルモ妨ナシ
- 沿海航路ノ汽船ニシテ船舶検査法施行細則第五十一條ニ掲クル一區ヲ航路定限ト爲スモノ及ヒ平水航路ノ汽船ニ於テハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨ノ數ハ二箇ト爲シ且二箇ノ内一箇ノ錨量ハ百分ノ十五以内第一號表ニ掲クル單量ヨリ少量ナルモ妨ナシ
- 錨錁ノ重量ハ第一號表及ヒ第二號表ニ掲クル錨ノ重量ノ四分ノ一以上トス
- 汽船ハ沿海航路以下、帆船ハ近海航路以下ニ限リ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ
- 錨ハ常時使用セサルモノト雖モ取出シ易キ場所ニ備置クヘシ
- 「スタッド」ナキ錨鎖ヲ用ウルトキハ其ノ徑ヲ適當ニ増スヘシ但長徑ト短徑トノ割合宜シキモノハ此ノ限ニ在ラス
- 日本形錨ヲ代用スル汽船ニハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ
- 七ノ二 日本形錨ヲ代用スル帆船ノ錨及ヒ錨索ハ錨量等ヲ定ムル噸數ニ

八 依リ第三號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ

第一號表及ヒ第二號表ニ於テ中錨ノ鎖及ヒ綱索ハ便宜其ノ一ヲ備ヘ或ハ相當ノ大サノ麻索、棕梠索、「マニラ」索ヲ以テ之ニ代用シ又同表中挽索ノ麻索及ヒ綱索モ便宜其ノ一ヲ備ヘ或ハ相當ノ大サノ「マニラ」索、棕梠索ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ナシ

九 錨ノ重量及ヒ錨鎖ノ截面ハ表ニ掲クルモノヨリ五分ノ一減シタルトキハ不合格トス

十 總噸數三十噸未滿ノ帆船、浚渫船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水航路ノ船舶及ヒ湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニ於テ

錨數錨量並ニ錨鎖大索等ノ徑、周及ヒ長ハ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル迄之ヲ減スルコトヲ得

第五十四條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ノ錨及ヒ錨索ハ左ノ規定ニ依リ

- 第三號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ
 - 一 大錨ノ重量及ヒ合量ハ表ニ掲クルモノヨリ五分ノ一減シタルトキハ不合格トス
 - 二 錨索ノ數ハ錨數ニ等シクシ大錨以外ノ錨索ハ其ノ錨量ニ應シ表中ノ

大錨索ニ準シテ其ノ周ヲ定ムヘシ

三 積石數三百石未滿ノ船舶ニ於テハ錨數、錨量及ヒ錨索ノ周及ヒ長ハ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル迄之ヲ減スルコトヲ得

第五十五條 總噸數五十噸以上ノ船舶ニ於テハ常用操舵具ノ外豫備操舵索一揃ヲ備ヘ且近海航路以上ノ帆船ニシテ總噸數二百噸以上ノモノニ於テハ舵ノ後部ニ應急舵鎖ヲ備フヘシ但平水航路ノ船舶ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ豫備操舵索ヲ備ヘサルモ妨ナシ

操舵汽機ヲ備フル船舶ニ於テハ手用操舵具ヲ備フヘシ但獨立セル二箇以上ノ操舵汽機ヲ備フルモノニ於テハ此限ニ在ラス

第五十六條 總噸數百噸以上ノ旅客汽船ニ於テハ蒸汽唧筒ノ送水管ヲ上甲板ニ導キ船内各部ニ達スヘキ消防用布管ヲ備ヘ尙總噸數三百五十噸以上ノ旅客汽船ニ於テハ消防用移動唧筒一組以上ヲ備フヘシ但湖川港内ヲ限リ航行スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條 旅客船ニハ平水航路ノ船舶ヲ除クノ外其ノ噸數ニ應シ左ノ規定ニ依リ第四號表ニ照ラシ端艇ヲ備ヘ且迅速安全ニ水面ニ卸シ得ル裝置ヲ爲スヘシ

- 一 端艇ノ容積ハ外部ニ於テ長、幅ヲ測リ長ノ中央ニ於テ内部ノ深ヲ測リ之ヲ相乗シタルモノ、十分ノ六トス但救命艇ニ於テハ空氣箱ノ容積ヲ除クニ及ハス
- 二 總噸數三百噸以上ノ船舶ニ在テハ之ニ備フヘキ端艇容積ノ二分ノ一以上ハ救命艇ノ容積ト爲スコトヲ要ス
- 三 一人ノ容積十立方呎ノ割合ヲ以テ旅客定員及ヒ船員ノ總員數ヲ搭載シ得ヘキ端艇ノ數及ヒ容積ヲ備フルトキハ第四號表ノ艇數及ヒ容積ニ達セサルモ其ノ不足ヲ補充スルヲ要セス又船舶検査法施行細則第六十四條及ヒ第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ニ於テハ其ノ端艇ハ第四號表ノ艇數及ヒ容積ニ達セサルモ規定ノ容積ト實際備フル端艇ノ容積トノ割合ニ依リ該船ニ搭載スヘキ總員ヲ定メ船員ノ員數ヲ控除シテ旅客定員ヲ定ムルコトヲ得
- 四 汽艇、容積五十立方呎未滿ノ普通端艇及ヒ容積百立方呎未滿ノ救命艇ハ之ヲ表中ノ容積ニ算入セサルモノトス
- 五 普通端艇ハ傳馬船其ノ他ノ舢舨ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ケナシ
- 六 傳馬船其ノ他ノ舢舨ノ容積ハ端艇ニ同ク其ノ長、幅、深ヲ測リ之ヲ相乗シタルモノ、十分ノ七トス

- 七 端艇ノ容積ハ端艇ノ船首材其ノ他見易キ場所ニ之ヲ表示シ又船名及ヒ船籍港ハ之ヲ端艇外部ノ見易キ場所ニ表示スヘシ
- 八 端艇ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ櫂及ヒ櫂架各二箇以上、放水口ノ栓、塗杓、鈎竿各一箇以上ヲ備ヘ又救命艇ニハ羅針盤、船燈斧及ヒ水箱各一箇以上ヲ備フヘシ
- 九 傳馬船其ノ他ノ舢舨ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ櫂、櫂架、放水口ノ栓、塗杓、鈎竿各一箇以上ヲ備フヘシ
- 十 救命艇ニハ各艇ニ又第四號表ニ掲クル普通端艇若ハ之ニ代用スヘキ傳馬船其ノ他ノ舢舨ニハ少クモ其ノ半數ニ各一組ノ櫂及ヒ帆ヲ備ヘ又端艇一隻ナルトキハ必ス之ヲ備フヘシ
- 第五十八條 救命艇ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
 - 一 艇尾ハ尖形ナルヲ要ス
 - 二 救命艇ニハ其ノ容積十立方呎ニ付少クモ一立方呎ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ考シ空氣箱ノ容積不足ナルトキハ「コーク」其ノ他ノ浮泛物ヲ入レタル完全ノ浮袋ヲ以テ之ヲ補フヘシ但「コーク」ノ一、二五立方呎ハ空氣箱ノ一立方呎ト同效力トス
 - 三 空氣箱ハ銅製若ハ黃銅製ト爲スヘシ但此ノ規程施行以前ノ製造ニ係

三 リ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
 四 鐵製ノ救命艇ニ於テ銅製若ハ黃銅製ノ空氣箱ヲ備フルトキハ之ヲ救命艇ノ外板ト密接セシム可カラス
 五 空氣箱ハ艇首、艇尾又ハ兩側ニ設置シ其ノ覆板ヲ固着スルニハ銅製若ハ黃銅製ノ螺釘ヲ用ウルヲ要ス
 六 救命艇ノ周圍ニハ救命索ヲ備フヘシ

第五十九條 總噸數百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ検査官吏ノ見込ニ依リ第四號表ニ掲クル端艇ノ代リニ又總噸數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ第四號表中當該噸數ニ對スル端艇ノ容積ト一般下級ノ噸數ニ對スル端艇ノ容積トノ差ニ相當スル端艇ノ代リニ端艇釣ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命浮帶ヲ用フルコトヲ得但救命筏ノ空氣函ハ三立方呎、救命浮環若ハ救命浮帶ハ各一箇ヲ以テ端艇容積十立方呎未滿ニ相當スルモノトス
 總噸數百噸以上ノ船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ端艇釣ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命浮帶ヲ代用スルトキハ端艇釣ヲ具フヘキ端艇ノ數ハ第四號表ニ依リ之ヲ定ムルモノトス
 端艇釣ヲ具フヘキ端艇ノ數ハ最小艇數十箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ其ノ定數ヨリ二箇以内、六箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ減スルモ妨

ナシ

端艇ニ代用スヘキ救命筏ハ検査官吏ノ適當ト認ムル構造ニシテ其空氣箱三立方呎ニ付一人ノ割合ヲ以テ算出シタル人員ニ對スル座席ニ充分ナル面積ヲ有シ錨一箇、錨索二十尋、櫂、救命索、其他必要ナル屬具ヲ備ヘ且搭載シ得ヘキ人員ヲ表示スヘシ

第六十條 旅客船ニアラサル船舶ニ於テハ平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客定員及船員各一人ニ對シ十立方呎ノ割合ヲ以テ第五十七條第一號及ヒ第四號乃至第十號ノ規定ニ從ヒ端艇ヲ備ヘ且迅速安全ニ水面ニ卸シ得ル裝置ヲ爲スヘシ但其一箇ハ總噸數三百噸以上ノ近海航路ノ汽船及ヒ遠洋航路ノ船舶ニ於テハ第五十八條ニ規定セル構造ノ救命艇ト爲スコトヲ要ス
 旅客船ニアラサル總噸數百噸未滿ノ船舶ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ前項ノ規定ニ從ヒ備フヘキ端艇ノ代リニ端艇釣ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命浮帶ヲ用ウルコトヲ得但救命筏ノ空氣箱ハ三立方呎、救命浮環若ハ救命浮帶ハ各一箇ヲ以テ端艇容積ノ十立方呎若ハ十立方呎未滿ニ相當スルモノトス
 前二項ノ場合ニ於テハ端艇若ハ救命筏ノ總容積及ヒ救命浮環若ハ救命浮帶ノ數ハ旅客船ニ要スルモノヨリ多キヲ要セス

第六十一條 此規定ニ依リ備フヘキ端艇ニハ揚卸ニ適當ナル端艇鈎若ハ之ト同一効力ヲ有スルモノヲ備フヘシ
 端艇鈎ハ沿海航路以上ノ汽船ニ於テハ鐵製トナシ端艇ノ長一呎ニ付五分ノ一時ノ割合ニ依リ又ハ左ノ算式ニ依リ其徑ヲ定ムヘシ但傳馬船其他ノ舢舨ニ備フル端艇鈎ノ徑ハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

$$d = \sqrt[3]{\frac{L \times B \times D}{40} \left(\frac{H}{3} + S \right)}$$

- d ハ端艇鈎ノ徑(吋ニテ)
- L ハ端艇ノ長(呎ニテ)
- B ハ端艇ノ幅(呎ニテ)
- D ハ端艇ノ深(呎ニテ)
- H ハ端艇鈎上部支點ヨリノ高(呎ニテ)
- S ハ端艇鈎上部突出ノ徑(呎ニテ)

明治三十四年一月一日以前ニ製造シタル船舶ノ端艇鈎ノ徑ハ前項ニ定メタル徑ノ五分ノ四以上ナルトキハ之ヲ合格ト看做ス

第六十二條 救命具其ノ他ノ屬具ハ航路定限ノ種類ニ依リ第五號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ

第六十三條 平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客船ニハ第五號表ニ揚クルモノノ外二箇以上ノ救命浮環ヲ増備シ且救命浮環ノ總數ハ端艇ノ數ヨリ少ナルヘカラス

救命浮環ハ船名ヲ記載シ上甲板ニ於テ衆人ノ認メ易ク且投入ニ便宜ナル場所ニ容易迅速ニ取放シ得ヘキ様配置スヘシ

救命浮環ノ内少クモ二箇ハ長十五尋以上ノ索ヲ取附ケ置クヘシ
 第六十四條 遠洋航路ノ船舶ニハ旅客定員及ヒ船員一人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ又近海航路ノ船舶ニハ旅客定員二人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ救命浮環ヲ備ヘ之ヲ各客室又ハ船員室ニ何時ニテモ取出シ易キ様配置スヘシ但船舶検査法施行細則第六十四條及第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ニハ本條ノ規定ニ依リ特ニ之ヲ増備スルヲ要セス

第六十五條 船燈ハ左ノ規定ニ依リ第五號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ
 一 燈筒ヲ使用スル船燈ヲ備フル船舶ニ於テ船燈一種ニ付沿海航路ノ船舶ナルトキハ三箇以上、近海航路及ヒ遠洋航路ノ船舶ナルトキハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フヘシ
 二 船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セサル様装置スルヲ要ス

- 三 綠紅ノ挿込硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フル船舶ニ於テハ近海航路以上ノ船舶ナルトキハ綠紅各二箇ノ豫備挿込硝子ヲ備フヘシ
- 四 舷燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面内ニ在ルコトヲ要ス
- 五 電燈ヲ常用トスル船舶ニ於テハ之ニ代用スヘキ油燈ヲ備フルヲ要ス
- 六 電燈ノ燈線間ノ距離ハ之ヲ燈心ノ幅ト看做シ船燈ニ關スル規程ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 七 舷燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ舷燈ハ何レモ隔板ニ適合スルモノナルヲ要ス

第六十六條

舷燈ノ隔板ハ左ノ規定ニ從ヒ燈心ヨリ三呎以上前方ニ突出スヘキ長ニ作リ之ヲ船舷若ハ其ノ他ノ固定物ニ取附クヘシ

- 一 隔板ノ縱線ハ船ノ首尾線ニ並行ナルコトヲ要ス
- 二 隔板ニ隔障ヲ取附クルトキハ隔障ノ外端ヨリ透鏡ノ前部ノ内縁ヲ貫キ燈心又ハ電燈ノ燈線ノ内端ニ引キタル線ハ船ノ首尾線ニ並行ナルコトヲ要ス

第六十七條

燈塔ヲ取附クルトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ
一 燈塔ノ窓ノ幅ハ射光角度百十二度半以上ヲ照ラシ得ヘキモノナルヲ

要ス

- 二 燈塔ノ窓ニハ無色透明ナル硝子ヲ使用スヘシ
- 三 燈塔ノ窓ニ使用スル硝子ハ二枚以上ノ板ヲ以テ組成スルトキハ堅線ト四十五度ノ角度ニ於テ斜ニ繼合セ其ノ棧ノ幅ハ八分ノ三吋ヲ超ユヘカラス但二箇以上ノ燈心ヲ備フル燈塔内ニ使用スルトキハ棧ノ幅ヲ増加シ且其ノ角度ヲ減少スルコトヲ得
- 四 燈塔内ニ使用スヘキ舷燈ハ成規ノ光達距離ノ最小限ヨリ優等ナル光力ヲ有スルモノナルヲ要ス
- 五 燈塔ニハ隔板ト焰穗トノ位置ヲ檢査シ得ヘキ爲メ徑一吋半以上ノ孔ヲ穿ツヘシ

第六十八條

汽船ニハ煙筒ノ前面ニ於テ音響ノ妨ナキ適當ノ高ニ汽笛若ハ汽角ヲ裝置スヘシ

第六十九條

星火ヲ發スル榴彈ヲ備フルトキハ其打上筒ハ遠洋航路ノ船舶ニ於テハ二箇ヲ備ヘ船首及ヒ船尾ニ於テ一ハ右舷ニ他ハ左舷ニ据附クヘシ又近海航路ノ船舶ニ於テハ一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据附クヘシ
號鐘ハ其ノ音響ノ妨ナキ適當ノ場所ニ懸垂シ其ノ徑八吋以上ナルヲ要ス
第七十條 測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ於テハ七封度以上、深海測鉛ニ於テハ二

十八封度以上ナルヲ要ス
 測鉛ニ附スル線ハ長ハ手用測鉛ニ於テハ二十五尋以上、深海測鉛ニ於テハ百二十尋以上ナルヲ要ス
 第七十一條 沿海航路以上ノ船舶ニハ其ノ航行スヘキ航路及ヒ港灣ノ海圖ヲ備フヘシ
 海圖ハ海軍水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スヘシ但最近ノ刊行ニアラサルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノハ之ヲ代用スルモ妨ナシ

第五章 旅客室及ヒ船員常用室

第七十二條 船舶検査法施行細則附録旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ掲クル上層旅客甲板トハ上甲板ノ直下ノ甲板ヲ謂フ但正甲板ニ搭載シ得ヘキ旅客員數ノ三分ノ一以上ノ旅客定員ヲ上甲板ニ有スル船舶ニ於テハ上甲板ヲ上層旅客甲板ト謂フ
 船舶検査法施行細則附録旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ掲クル下層旅客甲板トハ上層旅客甲板ノ直下ノ甲板ヲ謂フ
 第七十三條 旅客室ハ下層旅客甲板以上ニ之ヲ設クヘシ
 但シ下層旅客甲板下ノ甲板ハ其ノ甲板間ニ舷窓ヲ備ヘ且検査官吏ニ於テ旅客室ニ適スト認メタル場合ニ限り之ヲ旅客甲板ニ充ツルコトヲ得此ノ場合

ニ於テ旅客定員一人ニ充ツヘキ面容積ノ割合ハ下層旅客甲板ノ割合ニ依ル船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニ限り検査官吏ニ於テ差支ナシト認ニルトキハ艙内ノ貨物若ハ荷足ノ上ニ板及莖ヲ敷キタル場所ヲ旅客室ト爲スコトヲ得但第七十二條ニ掲クル下層旅客甲板下ニ於ケル荷足ノ上ハ此ノ限りニアラス
 前項ノ場合ニ於テ旅客定員一人ノ面容積ノ割合ハ下層旅客甲板ノ割合ニ依ル
 第七十四條 甲板間ノ高遠洋航路ノ船舶ニ於テハ六呎以上、近海航路ノ船舶ニ於テハ五呎以上、沿海航路及ヒ平水航路ノ船舶ニ於テハ四呎六吋以上ナルニアラサレハ旅客室ヲ設クルコトヲ得ス但船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨリ甲板ノ裏面迄ノ高三呎六吋以上ナルトキハ之ヲ客席ト爲スコトヲ得
 第七十五條 上甲板以上ニ於ケル旅客室ノ高ハ遠洋航路ノ船舶ニ於テハ六呎以上、近海航路ノ船舶ニ於テハ四呎六吋以上、沿海航路ノ船舶ニ於テハ三呎六吋以上ナルヲ要ス
 第七十六條 旅客室ノ高六呎以上ナルニアラサレハ客席ヲ二層ト爲スコトヲ得ス
 第七十七條 旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クヘカラス又旅客甲板ハ梁ニ固着

○船舶検査規定

シ填隙シタルモノナルヲ要ス但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

暴露甲板鐵甲板ニシテ其ノ直下ニ旅客室ヲ設クルトキハ該部分ニ於テ之ニ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

前二項ノ規定ハ平水航路及ヒ沿海航路ノ船舶ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

第七十八條

客席ニハ莖、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スヘキ敷物ヲ備フヘシ

第七十九條

雜居客室ノ長十二呎以上ニシテ其ノ出入口一邊ニノミアルトキハ其ノ出入口ヨリ該室ヲ貫キ幅一呎十吋以上ノ通路ヲ設クヘシ之ヲ設ケザルトキハ全面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツヘシ

雜居客室二室以上鄰接シ其ノ出入口一室ノ一邊ニノミ在ルトキハ其ノ出入口ヨリ他室ニ達スル迄幅一呎十吋以上ノ通路ヲ設ケ又他室内ノ通路ハ前項ニ準スヘシ

第八十條

左ニ掲クル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ス

一 外車汽船ノ車覆

船首隔壁ノ前方但船首隔壁ノ設ナキ船舶ニ於テハ正甲板上面ニ於テ

船首材ノ内面ヨリ長最大船幅ノ二分ノ一ニ達スル迄ノ場所

幅若ハ長一呎十吋未滿ノ場所

汽鐘室ノ周圍一呎十吋迄ノ場所但防熱装置ヲ施シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ他検査官吏ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所

第八十一條

一 通路

二 艙口ノ上面

三 艙口ノ周圍一呎十吋迄ノ場所

四 載貨門ノ前後各一呎二吋ノ所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍一呎十吋迄ノ場所

五 其ノ他検査官吏ニ於テ客席ニ不適當ト認ムル場所

湖川港内ヲ限リ航行スル船舶及ヒ發航港ヨリ到達港マテ直航スル船舶ニ於テハ艙口ノ上面、周圍及ヒ載貨門ノ内側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ
艙口ヨリ載貨門ニ至ル除去面積ヲ算スルニ當リ艙口ト載貨門ノ位置並列セ

サルトキハ載貨門ノ中央ヨリ艙口ノ中央ニ至ル距離ト載貨門ノ幅ニ二呎四寸ヲ加ヘタルモノト相乗シ其ノ積ヲ除去面積ト爲スヘシ

第八十二條 甲板間機關室ノ前後ニ於ケル雜居客室ノ容積ハ每室其ノ前中後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後上下ノ幅ニ前後ノ中幅及ヒ中央上下ノ幅各四倍ト中央ノ中幅十六倍トヲ加ヘ之ヲ三十六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長ヲ乘シ總面積トシ之ヨリ其ノ室内ニ於ケル蔽圍ノ場所ノ平均幅ニ長ヲ乘シタルモノヲ減シ其ノ残り面積ニ平均ノ高ヲ乘シタルモノトス
機關室ノ兩側、甲板上、其ノ他或ル一部ニ於ケル客室ノ容積ハ平均ノ幅ニ長、高ヲ乘シ若シ其ノ室内ニ蔽圍ノ場所アルトキハ其ノ長、幅、高ヲ乘シタル積ヲ減シタルモノトス

船尾斜曲ナル場所ノ容積ヲ算スルニハ其ノ長(矢)幅(弦)ノ二分ノ一以下ノ所迄ハ本條第一項若ハ第二項ニ依リ算出シ其ノ後部ハ高ノ中央ニ於テ長ヲ測リ其ノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ最大幅ト高トヲ乘シ其ノ容積ト爲スヘシ
第八十三條 甲板間機關室ノ前後ニ於ケル雜居客室ノ面積ハ每室客席ニ充ツヘキ甲板又ハ棚ノ上面ニ於テ前中後三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ニ中央ノ幅四倍ヲ加ヘ之ヲ六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長ヲ乘シ總面積トシ之ヨリ第八十一條ニ掲クル除去スヘキ場所ノ面積ヲ減シタルモノトス

機關室ノ兩側、甲板上其ノ他或ル一部ノ客席ハ平均ノ幅ニ長ヲ乘シ前項ニ準シ通路等ノ面積ヲ減シタルモノトス

船尾斜曲ナル場所ノ面積ヲ算スルニハ其ノ長(矢)幅(弦)ノ二分ノ一以下ノ所迄ハ本條第一項若ハ第二項ニ依リ算出シ其ノ後部ハ長ノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ最大幅ヲ乘シタルモノトス

第八十四條 旅客定員ヲ算出スルニハ第八十二條ニ依リ算出シタル旅客室容積及ヒ第八十三條ニ依リ算出シタル旅客室面積ヲ船舶ノ航路定限及ヒ客室ノ等級ニ應シ船舶検査法施行細則附錄旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ規定スル旅客定員一人分最小容積及ヒ面積ヲ以テ除去シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數ヲ以テ該室ノ旅客定員ト爲スヘシ

第八十五條 甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フヘシ
沿海航路以上ノ船舶ニ於テハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ハテス何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ヘキ裝置トナシ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅一呎十寸以上ノモノ一箇以上、百人未滿ナルトキハ幅三呎以上ノモノ一箇以上若ハ幅一呎十寸以上ノモノ二箇以上又百人以上ナルトキハ

五人ニ付二吋ノ割合ノ總幅ヲ有スル梯子ヲ備フヘシ但回り梯子若ハ勾配高ク段面狭クシテ柵欄ニ依ラサレハ昇降シ難キモノハ其ノ幅三分ノ二ヲ以テ前記ノ割合ニ適合セシムルモノトス
梯子ハ成ルヘク前後ノ方向ニ置キ甲板ト六十度以内ノ角度ニ据ヘ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルヘシ
船舶検査法施行細則第六十四條及ヒ第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ニ於テハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ梯子ノ巾ハ前項ノ規定ニ合格セサルモ妨ナシ

第八十六條 旅客室及ヒ船員常用室ニハ明取り及ヒ空氣流通ノ爲メ相當ノ窓ヲ設クヘシ

第三級船以上ノ船舶ノ舷窓ハ圓形水密ニシテ開閉シ得ヘキ堅牢ノ硝子戸ヲ用キ且波浪ヲ受クヘキ舷窓ニハ堅牢ノ覆蓋ヲ備フヘシ但明治三十年七月一日以前ノ製造ニ係ル船舶ニ限り角形舷窓ヲ備フルモ其ノ構造水密ナルトキハ此ノ限りニ在ラス
上甲板上ノ舷窓ハ上甲板ノ諸口水密ナルトキハ覆蓋ヲ設クルヲ要セス又甲板間ヲ旅客室ニ専用スルトキハ検査官吏ノ見込ニ依リ舷窓ニハ覆蓋ヲ設ケサルモ妨ナシ

舷窓ノ枠及ヒ附屬品ハ第二級船以上ニ於テハ覆蓋ノ外鑄鐵製ノモノヲ用ウヘカラス但明治三十四年一月一日以前ノ製造ニ係ル船舶ニシテ鑄鐵製ノモノヲ用キタルトキハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り合格ト看做ス

第八十七條 近海航路以上ノ船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ舷窓、出入口、艙口、天窗其ノ他甲板諸口ノ外ニ通風管ヲ上下層旅客甲板ニ各別ニ設ケ其截面ハ旅客定員一人ニ付出入口共各二平方吋半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ一倍三分ノ一ト爲スヘシ
屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其屈曲ノ度ニ應シ各屈曲ニ對シ百分ノ五乃至十其截面ヲ増加スヘシ又屈折セル造風管ヲ用ウルトキハ其屈折ノ度ニ應シ各屈折ニ對シ百分ノ十六乃至三十六其ノ截面ヲ増加スヘシ
船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通シ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合若ハ雜居客室ト他室ト空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ減少スルコトヲ得
船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭

載スル場合ニ於ケル通風管ハ検査官吏ノ見込ニ依リ第一項ノ規定ニ依ラザ
ルモ妨ケナシ

第八十八條 船員常用室ハ其ノ船舶ノ航路定限ニ應スル旅客室ニ準シ之ヲ設
クヘシ但該常用室ハ之ヲ船首隔壁ノ前方ニ設クルコトヲ得

平水航路ノ船舶旅客船ニアラサル沿海航路ノ船舶及ヒ晝間ノ航行ノミニ供
スル沿海航路ノ旅客船ニ於テハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムル迄船員常
用室ノ積量ヲ減スルコトヲ得

第八十九條 船舶検査法施行細則第六十四條ニ該當スル船舶ニ於テ高三呎以
上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ有シ且完全ノ天幕ヲ備フルトキハ其ノ航行豫定時間十
二時間未滿ノモノニ限リ上甲板ニ於テ適當ノ場所ニ限リ旅客ヲ搭載スルコ
トヲ得

航行豫定時間三時ヲ超ヘサル平水航路ノ船舶ハ上甲板又ハ其他閉塞セサル
場所ニ於テ検査官吏ノ適當ト認ムル部分ニ限リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

前項ノ場所ハ其ノ形狀ニ從ヒ第八十三條ノ規定ニ依リ面積ヲ算出スヘシ

第八十九條ノ二 第七十三條第二項、第七十七條但書、第二項但書及第八十
七條第四項ノ規定ハ船舶検査法施行細則第六十六條ノ二ノ規定ニ依リ軍隊
ヲ搭載スル場合ニ準用ス

第六章 旅客及ヒ船員ニ關スル設備

第九十條 移民船ニ於テハ乙種船舶検査證書ニ掲クヘキ旅客定員五十人ニ付

十八平方呎以上ノ甲板面積ヲ有シ且六呎以上ノ高ヲ有スル病室ヲ上層旅客
甲板以上ニ設ケ他室ト區畫スヘシ

前項ノ病室ニハ適當ノ寢臺及ヒ必要ノ附屬品ヲ備フヘシ

第九十一條 移民船ニ於テハ乙種船舶検査證書ニ掲クヘキ旅客定員ニ對シ日
本ノ港ヨリ初メテ到達スヘキ外國ノ港迄ノ航行豫定時日ノ長短ニ應シ第六

號表ニ依リ食料及ヒ食用水ヲ備フヘシ

第九十二條 旅客船ニ於テハ旅客定員及ヒ船員ヲ併セ人員大約五十人ニ付一

箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クヘシ但人員三百人以上若ハ沿海航路以下ノ船
舶ナルトキハ検査官吏ニ於テ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

一等室用若ハ船員用ノ大便所ヲ區別シテ設クルトキハ一等室定員若ハ船員
ヲ除キ其ノ殘餘ノ人員ニ對シ前項ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ

船舶検査法施行細則第六十四條ニ該當シ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ
船舶ニ於テハ本條ノ規定ニ依リ特ニ大便所ヲ増備スルヲ要セス

第九十三條 旅客船ニ於テハ上甲板又ハ上甲板上諸室ノ頂部ニテ旅客ノ運動
ニ適當ニシテ且安全ナル場所ヲ設クヘシ

移民船ニ於テハ乙種船舶検査證書ニ掲クヘキ旅客定員一人ニ付五平方呎ノ

割合ヲ以テ前項ノ運動場ヲ設クヘシ

前項ノ場所ハ其ノ形狀ニ從ヒ第八十三條ノ規定ニ依リ面積ヲ算出スヘシ

第九十四條

旅客船ニ於テハ高三呎以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クヘシ

但第三級船以下ノ船舶又ハ船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ノミヲ搭載スル船舶ニシテ検査官吏ニ於テ安全ト認ムルトキハ舷牆又ハ柵欄ノ高ヲ減スルカ若ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

柵欄ノ横棒ハ其ノ距離九吋ヲ超ユカラス但之ニ帆布若ハ網ヲ取附ケ其他検査官吏ニ於テ安全ト認ムル装置アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條

旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ旅客ノ危險不便ヲ感セサル位置ニ設ケ

且堅牢ナル舷梯鈎ヲ備フヘシ但沿海航路以下ノ船舶ニシテ検査官吏ニ於テ必要ト認メサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ舷梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板若ハ帆布ヲ張ルヘシ

第三編 機關部

第一章 検査準備

第九十六條

定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

一 吸鑿ノ彈環、滑瓣、タービン汽機ノ外筐上半、發動機ノ吸入瓣竝ニ

排出瓣等ヲ取外シ排氣唧筒、循環唧筒、給水唧筒、浚水唧筒等ノ諸瓣ヲ取外シ冷氣器ヲ開キ置クコト又主軸ニ於テハ曲拐栓黃銅ヲ取外シ主軸受、中間軸、進力受臺等ノ上半及發動機ノ推進機逆進機ヲ取外シ置クコト

二 機關室ノ浚水ヲ排除シ底部ヲ掃除シ泥箱ヲ開キ芥除ヲ床板上ニ取出シ蒸汽唧筒ノ各艙ニ於ケル芥除ヲ露出シ置クコト

三 正汽罐副汽罐ハ水ヲ排除シ人孔其ノ他ノ諸孔ヲ開キ火床火橋ヲ取出シ燃燒室、汽部、水部、汽兜、加熱器ヲ掃除シ安全瓣、制限瓣及ヒ正塞汽瓣ヲ取外シ置クコト

四 屬具ヲ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト

第九十七條

特別検査ニ於テハ前條ニ掲クル準備ノ外左ノ準備ヲ爲スヘシ

一 補助汽機ヲ開キ置クコト

二 推進器ヲ取外シ螺旋軸ヲ拔取り置キ瓣、嘴子ニシテ汽機、汽罐ノ要部ニ屬シ若ハ水線以下ニ於テ船外ニ通スルモノヲ開放シ置クコト

三 吸鑿及ヒ接續鑿ヲ取外シ置クコト

四 汽笛及ヒ正汽管ノ包被竝ニ機關室ヨリ各艙ニ通スル諸管ノ包被ヲ取除キ置クコト

五 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
第九十八條 移民船検査及ヒ臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二章 汽機及發動機

第九十九條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

- 一 汽笛、冷汽器、唧筒、船尾管等ヲ鑄造シタルトキ並ニ仕上テ了リタルトキ
 - 二 諸軸及ヒ諸鑄ノ粗削ヲ爲シタルトキ
 - 三 諸軸及ヒ汽笛中心線ヲ定ムルトキ
 - 四 汽機ヲ船内ニ据附クルトキ
 - 五 水壓試験執行ノトキ
 - 六 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ
- 第一百條 検査官吏必要ト認ムルトキハ汽機及發動機ノ要部ヲ錐揉セシムヘシ又ハ其ノ現狀ニ依リ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 單式汽機ニ於テハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍
 - 二 聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ
 - 三 三聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタル者、中壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、七五ヲ乘シタルモノ、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、三ヲ乘シタルモノ
 - 四 聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、第一中壓汽笛ハ最大汽壓、第二中壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、二五ヲ乘シタルモノ
- 、五ヲ乘シタルモノ、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、二五ヲ乘シタルモノ
- 辨匣、收汽室、收汽管、汽包室、汽笛蓋及ヒ辨匣蓋ハ其ノ附屬スル汽笛ト同一ノ水壓試験ヲ執行スヘシ
- 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スル場合ヲ除ク外検査官吏ハ相當ト認ル汽壓力ヲ以テ試験ヲ施行シ前二項ノ試験ニ代フルコトヲ得
- 第一百二條 冷汽器ハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ五呎以上ノ水高壓力

ヲ以テ其ノ漏否ヲ検査スヘシ

内部ヲ窺知シ能ハサル表面冷汽器ハ細管ノ幾分ヲ拔出サシメ之ヲ検査スヘシ

第三百三條 船尾管支面材ノ磨耗其ノ内徑ノ二十分ノ一若ハ十六分ノ五分ニ及フトキハ之ヲ整調スヘシ

第三百三條ノ二 發動機ニハ反轉裝置及ヒ緩急裝置ヲ設クヘシ

第三百三條ノ三 電氣發動機ニハ絶縁裝置ヲ施スヘシ

電氣發動機ニハ速度調製器開閉器及ヒ自動遮斷器ヲ備フヘシ

第三章 汽鐘

第三百四條 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽鐘包被ノ全部若ハ幾分ヲ取離シ又ハ汽鐘ヲ移動セシムヘシ

小汽鐘、加熱器、汽兜ニシテ狹隘ノ爲メ検査スルコト能ハサルトキハ支柱、焰管等ヲ適宜取除カシメ又人孔狹小ニシテ内部ヲ検査スルコト能ハサルトキハ該孔ヲ改造セシムヘシ

第三百五條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢

査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

- 一 突縁又ハ鍛接シタルトキ
- 二 燒鈍法ヲ行ヒタルトキ
- 三 各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ
- 四 全體ノ構造ヲ了リタルトキ
- 五 水壓試験執行ノトキ
- 六 汽鐘ヲ船内ニ据附クルトキ
- 七 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第三百六條 検査官吏必要ト認ムルトキハ鉸釘ノ若干ヲ拔取ラシメ又ハ鐘板ヲ錘揉セシムヘシ

第三百七條 汽壓制限ハ機關検査規定第三章ニ依リ検査官吏之ヲ定ム但機關ノ現狀ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ減スルコトヲ得

第三百八條 人孔及ヒ泥孔ハ相當ノ補強環又ハ突縁ヲ備フヘシ但長徑六吋以下ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三百九條 鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル場所ニ使用スヘカラス但明治三十年七月一日以前ヨリ使用シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三百十條 鍛合シタル鋼製支柱ハ使用スヘカラス

○船舶検査規程

封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍、既ニ使用シタル汽鐘ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ四十五封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ一倍半ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期検査又ハ臨時検査ニ於テ検査官吏カ必要ト認ムルトキハ前項ニ依リ汽鐘ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

既ニ使用シタル汽鐘ニシテ其ノ大分部ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル汽鐘ニ準シ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第五條第二項ニ依リ定期検査ニ準シ特別検査ヲ執行スル船舶及ヒ浚渫船ノ汽鐘ハ初メテ使用スルトキ及ヒ以後六箇年毎ニ本條第一項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第四章 唧筒、瓣、嘴子、管及ヒ屬具等

第一百十二條 遠洋航路ノ船舶ニ於テハ正給水唧筒及ヒ正塗水唧筒各二箇ヲ備ヘ其ノ一箇ヲ使用スルトキト雖モ他ノ一箇ヲ開放シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ

近海航路以下ノ船舶ニ於テハ正給水唧筒及ヒ正塗水唧筒各一箇ヲ備フヘシ

前二項ノ唧筒ハ獨立ノ汽機ヲ以テ運轉セシムルコトヲ得

第一百十三條 近海航路以上ノ船舶及ヒ上甲板下ノ噸數百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ニ於テハ機關室ニ副唧筒一箇ヲ備ヘ汽鐘ニ給水シ且冷汽器及ヒ甲板上ニ送水シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

上甲板下ノ噸數百噸未滿ノ船舶ニ於テハ汽鐘給水用副唧筒一箇ヲ備フヘシ但シト甲板下ノ噸數二十噸未滿ノ船舶ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ手用唧筒ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

前二項ノ唧筒ニ屬スル給水管及ヒ制限瓣ハ獨立ニ之ヲ備フヘシ

第一百十四條 近海航路以上ノ船舶及ヒ上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ニ於テハ機關室ヨリ各艙及ヒ水密構造ノ車軸隧道ニ正塗水唧筒ノ吸水管ヲ通シ其ノ塗水ヲ排除シ得ヘキ裝置ヲ爲シ尙副唧筒ノ吸水管ヲシテ之ニ連續セシムヘシ但上甲板下ノ噸數三百五十噸未滿ノ木船ニ限リ各艙ニ通スルノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百十五條 近海航路以上ノ船舶及ヒ上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ニ於テハ塗水注射器ヲ備フルカ若ハ循環唧筒ニ塗水吸水裝置ヲ爲シ其ノ瓣ハ機關室床板上ニ於テ開閉シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ又其ノ吸水管端ニハ不還瓣ヲ備フノシ

第一百十六條 近海航路以上ノ船舶及ヒ上甲板下ノ噸數五百噸以上ノ沿海航路ノ船舶ノ給水唧筒若ハ給水管ニハ適當ナル發條逃出瓣ヲ備フヘシ

第一百十七條 正汽管及給水管ノ強力ハ機關検査規程第四章ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第一百八條 汽罐各部ニ屬スル汽管及ヒ水管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ

第百十九條 正汽管ニ伸縮ノ餘裕ナキトキハ膨脹接合其ノ他適當ナル裝置ヲ

第百二十條 汽管ニハ充分ナル排水裝置ヲ爲スヘシ

第百二十一條 石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ破損セサル様覆箱ヲ設クヘシ

第百二十二條 艙内ヲ通過スル吸水管竝ニ塗水管ニハ貨物積載等ノ爲メ破損

第百二十三條 正汽管及ヒ給管ハ左ノ場合ニ於テハ汽壓制限二倍ノ水壓試驗

第百二十四條 最大喫水線以下及ヒ其近傍ノ孔ニ通スル諸管ハ容易ニ開閉シ

第百二十五條 鐵船ニ於テハ水線以下ニ於テ外板ニ瓣及ヒ嘴子ヲ取附タル螺

第百二十六條 海水嘴子竝ニ瓣ハ機關室床板上ニ於テ容易ニ開閉シ得ヘキ裝

第百二十七條 放水瓣若ハ放水嘴子ハ罐體竝ニ船體ノ外板ニ各別ニ之ヲ取附

第百二十八條 放水嘴子ハ成ルヘク閉塞スルニアラサレハ其ノ把手ヲ取外シ

第百二十九條 排水瓣ハ成ルヘク最大喫水線以上ニ備フヘシ

第百三十條 汽罐ニハ硝子驗水計一箇以上、驗水嘴子二箇以上及ヒ驗壓器一

第百三十一條 驗壓器ハ特別検査又ハ定期検査ノトキ及ヒ検査官吏ノ必要ト

第百三十二條 汽罐ニハ徑二吋以上ノ安全瓣二箇以上ヲ備フヘシ

○船舶検査規程

得ヘキ瓣又ハ嘴子ヲ以テ外板ニ取付クヘシ但上甲板下ノ噸數五百噸未滿

沿海航路以下ノ船舶ニ於テハ最大喫水線以上ノ孔ニ通過スル諸管ニ限リ檢

査官吏ノ見込ニ依リ瓣又ハ嘴子ヲ省略スルコトヲ得

第百二十五條 鐵船ニ於テハ水線以下ニ於テ外板ニ瓣及ヒ嘴子ヲ取附タル螺

釘ハ外板ニ振込ムカ若ハ埋頭スヘシ

第百二十六條 海水嘴子竝ニ瓣ハ機關室床板上ニ於テ容易ニ開閉シ得ヘキ裝

置ト爲スヘシ

第百二十七條 放水瓣若ハ放水嘴子ハ罐體竝ニ船體ノ外板ニ各別ニ之ヲ取附

クヘシ

第百二十八條 放水嘴子ハ成ルヘク閉塞スルニアラサレハ其ノ把手ヲ取外シ

得サル裝置ト爲スヘシ

第百二十九條 排水瓣ハ成ルヘク最大喫水線以上ニ備フヘシ

第百三十條 汽罐ニハ硝子驗水計一箇以上、驗水嘴子二箇以上及ヒ驗壓器一

第百三十一條 驗壓器ハ特別検査又ハ定期検査ノトキ及ヒ検査官吏ノ必要ト

第百三十二條 汽罐ニハ徑二吋以上ノ安全瓣二箇以上ヲ備フヘシ

前項ノ安全瓣ハ火床ノ面積十四平方呎ヲ超エサル汽罐ニ在リテハ一箇ト爲スコトヲ得但火床ノ面積六平方呎ヲ超エサル汽罐ニ在リテハ其ノ徑ヲ二吋以下ト爲スモ妨ナシ

第三百三十三條 封鎖スヘキ安全瓣ノ面積ハ第七號表ノ場合ヨリ少カルヘカラス

安全瓣一箇ノ面積第七號表ノ割合以上ナルトキハ一箇ヲ封鎖シ若シ其ノ割合ニ滿タサルトキハ二箇以上ヲ封鎖スヘシ

汽壓制限ヲ減少シタル爲メ安全瓣ノ面積第七號表ノ割合ニ滿タサルトキハ第三百三十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限り其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第三百三十四條 安全瓣ハ其ノ瓣ト罅トヲ接續セシムヘシ

第三百三十五條 安全瓣ノ發條ハ最大汽壓ニ對シ其ノ受クヘキ壓縮力ヲ加フルモ原形ニ複スルモノナルヲ要ス

第三百三十六條 安全瓣ニハ機關室ヨリ容易ニ開閉シ得ル揚瓣裝置ヲ設ケ且瓣ノ昇降距離ハ瓣徑ノ四分ノ一ヨリ少カルヘカラス

第三百三十七條 安全瓣ノ排汽管ノ面積ハ第七號表ニ據リ算定シタル安全瓣ノ積面ヨリ少カルヘカラス

第三百二十八條 安全瓣ニハ適當ナル排水管ヲ備フヘシ

第三百二十九條 安全瓣ノ適否ハ汽力ヲ以テ定ムヘシ若シ給水瓣及ヒ塞汽瓣ヲ閉チ少クモ二十分間充分ニ焚火シ安全瓣ヨリ蒸汽溢出スルモ汽壓ノ昇騰尙汽壓制限ノ十分ノ一ヲ超過セサルモノナルヲ要ス

第三百四十條 加熱器ニハ別ニ安全瓣ヲ備フヘシ

第三百四十一條 屬具ハ第八號表又ハ九號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第五章 機關ヲ有ル帆船ノ機關
第三百四十一條ノ二 機關ヲ有スル帆船ノ機關ノ檢査ハ第一編、第三編第一章乃至第三章、第四章中第十三條、第十七條乃至第四十條ノ規定及ヒ第八號表並ニ九號表中平水航路ニ關スル規定ニ依ル

附 則
本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

發動機船檢査規程ハ之ヲ廢止ス
明治四十四年七月一日以前ニ進水シタル鐵船ニシテ其錨ノ數並ニ重量、錨鎖ノ徑並ニ長及ヒ錨索、挽索並ニ大索ノ數、周並ニ長ニ關シ從前ノ規定ニ合格スト認メラレタルモノニ付テハ本令施行後ト雖モ檢査官吏ノ見込ニ依リ當分ノ內從前ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

明治四十三年六月遞信省第六十五號附則第二項ニ掲クル船舶ニ付テハ検査官
 更ハ第八條第二項ノ標準ニ拘ハラヌ特別検査期間ヲ二年以上三年未満ト定ム
 ヘシ
 第一號表乃至第四號表及第六號表乃至第八號表ハ略ス

附則

本令施行ノ際現ニ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ航行期間滿
 了迄從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
 本令施行後最初ニ受クヘキ船底又ハ螺旋軸検査ノ期日ハ從前ノ規定ニ依ルコ
 トヲ得

第五號表

船體部屬具表

航路	航路		汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	路汽船	路汽船	捕	要
	汽船	帆船										
遠洋航路	汽船	帆船	六	四	四	二	二	二	二	二	二	二
近海航路	汽船	帆船	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二
沿海航路	汽船	帆船	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
平水航路	汽船	帆船	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

總噸數五噸未満ノ平水航路ノ汽船及
 七噸數三十噸又ハ積石數三百石未満
 ノ帆船ニハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得

救命浮環	救命燈	舷燈	碇泊燈	紅燈	黑珠	火箭若ハ 星火ヲ特 スル榴彈	信號焰管	機械製霧 中號角	號鐘	國旗	救命浮環	舷燈	碇泊燈	紅燈	黑珠	火箭若ハ 星火ヲ特 スル榴彈	信號焰管	機械製霧 中號角	號鐘	國旗
六	二	二對	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四	二	二對	二	二	二	二	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	二	一對	一	二	二	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一對	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一對	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一對	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一對	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

旅客船ニアラサル沿海航路ノ汽船ニ
 ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 湖川港内ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使
 用スル船舶ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナ
 シ
 近海航路以下ノ船舶ト雖モ船ノ長百
 英尺以上ナルトキハ二箇ヲ備フヘシ
 總噸數四十噸未満ノ汽船ニハ之ヲ備
 フルヲ要セス
 總噸數四十噸未満ノ汽船ニハ之ヲ備
 フルヲ要セス
 口徑三吋半以上ノ信號砲又ハ口徑五
 吋半以上ノ白砲附屬具及七十二發以
 上ノ裝藥ヲ備フルトキハ之ヲ備ヘサ
 ルモ妨ナシ

○船舶検査規定

船員法

明治三十二年公布 (法律)

第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス 但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラズ

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戶籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラズ

- 一 氏名
- 二 本籍地
- 三 身分
- 四 出生ノ年月日

○船員法

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ
外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年
者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到著ノ
日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ
錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變
更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳
ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前
項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滯ナク更ニ其交付ヲ申請ス
ルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滯ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要
ス

ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルト
キハ船員カ日本ニ到著シタル後遲滯ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請
スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但
原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ
返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要
ス

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行
フニ必要ナル命令ヲ爲スコト得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一
項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他
危険ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

○船員法